

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔理科〕 種目〔理科〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [理 科] 種目 [理 科]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市には、こども文化科学館、安佐動物公園、植物公園、江波山気象館等の施設があり、様々な分野の事象を観察・調査することができる施設が整っている地域である。周辺部は、山や川など自然に恵まれており、自然の中での体験から理科の学習につながる学びを得ることができる。また、大雨による土砂災害等の自然災害も多く発生しており、自然災害と人間との関わり方についての認識を深めさせることが必要な地域でもある。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の実態として、観察や実験に対する意欲を持ち、進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えることができている。一方、知識及び技能の習得や、それらを活用すること、観察実験の結果を分析・解釈することに課題が見られる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫 ② 観察・実験の技能を習得させるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 単元ごとの章立て
<内容の表現・表記>	⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「章末 学んだことをチェックしよう」を設け、二次元コードから章末問題へアクセスできるようにしている。また、各単元末に、基本事項を確認するための「学習内容の整理」と問題演習を行う「確かめ問題」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようになっている。さらに、知識を深める問題演習の「活用問題」を設けている。
- つまづきやすい内容には、「例題」、「考え方」、「練習」を設けている。また、二次元コードから「練習問題」にアクセスができるようにしている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験を行う際の注意事項にマークを付している。注意事項等は、6種類のマークで示している。
- 各学年に「理科室の決まり」として、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、事故が起きた場合の応急処置の方法と、実験中に地震が起きたときの対処方法を掲載している。さらに第1学年では、1枚のイラストから誤った行動を10個見つける活動を設定している。
- 第2学年と第3学年の「基本操作」に、顕微鏡の操作手順を掲載している。また、第2学年では、倍率と視野の明るさの関係を説明したり、試料が見えづらい事例を写真で4例掲載し、対処の方法を説明している。さらに、二次元コードから顕微鏡の「操作説明」へアクセスできるようにしている。

2 思考力、判断力、表現等の育成

視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 各学年の巻頭に「『探究』の流れを確認しよう」「教科書の使い方をおさえよう」として、探究の過程を8段階で示し、考察の後に課題に対する結論をまとめたり、ほかの人の書いたものと比べたりすることで自分の考えを広げ、深められるよう設定している。
- 第1学年に4箇所、第2学年に5箇所、第3学年に4箇所「じっくり探究」として、探究の過程の流れに沿って疑問を解決する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元のはじめに、「この単元で学ぶこと」として各章の内容を掲載している。また、ページ下部には、生徒がどの段階を学習しているかがわかるフローチャートを設けている。さらに、各章のはじめにある二次元コードから「スタート動画」にアクセスできるようにしている。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各章のはじめと終わりに、「Before&After」を設けて、その章を学ぶ前と後で、自分の考えがどのように変わったか振り返りができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して2箇所ある。うち、本市に関連した資料が2箇所あり、広島市植物公園と市内の水害碑を、写真を付して掲載している。
- サイズ AB判
第1学年 262 ページ (約 500 g) 第2学年 310 ページ (約 596 g) 第3学年 326 ページ (約 610 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 第2学年で「気象現象がもたらすめぐみと災害」の節にて、「災害を起こす気象現象を止めることはできないが、被害を小さくするための備えはできる。」と説明し、雨量等の予想やハザードマップにて災害の被害を減らせることを示している。また、側注に「注意報」「警報」「特別警戒」を緊急度別に掲載している。
- 第3学年で「自分たちの住む地域で過去に起こった自然災害について調べよう」との課題を設定し、レポート例に「本市の水害碑について」および「『広島市防災ポータル』を活用した調査結果」を掲載している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年の目次のページの二次元コードまたはサイトのアドレスからデジタルコンテンツを利用できるようにしている。また、各ページに記載された二次元コードおよびサイトのアドレスから、「実験手順」「資料」「シミュレーション」等、学習を補足する内容にアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。

1 知識及び技能の習得

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「章末問題」を設けている。また、各単元末に基本事項を確認する「まとめ」と問題演習を行う「単元末問題」「読解力問題」を設けている。さらに、第3学年の巻末に、問題演習を行う「学習のまとめ」を設けている。
- つまづきやすい内容には、「例題」、「解答例」、「演習」の欄を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順をまとめりごとに見出しを付け、実験操作のコツや注意事項にマークを付している。
- 各学年に「理科室の決まり」として、安全に実験を行うために、「実験の心構え」を実験前、実験中、実験後と注意事項をチェックリストにしている。また、火を扱うときの注意と、実験中に地震が起きたときの対処方法を掲載している。さらに、1枚のイラストから誤った行動を見つける活動を設定している。
- 第2学年の「基礎技能」に、顕微鏡の各部の名称や操作手順を掲載している。また、試料が見えづらい事例を写真で示している。

2 思考力、判断力、表現等の育成

視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の巻末に、「探究の進め方」として、探究の過程を8段階で示し、考察の後に、調べたことをまとめ、発表するように設定している。
- 各単元末に、「探究活動」を設定し、習得した知識・技能を統合し、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元のはじめに、章立てと「これから学習すること」として、各章の内容を掲載している。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、「ふり返ろう」の欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して1箇所ある。うち、本市に関連した資料が1箇所あり、安佐動物公園を、写真を付して掲載している。
- サイズ B5判
第1学年 294 ページ (約 531 g) 第2学年 318 ページ (約 565 g) 第3学年 374 ページ (約 662 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 第2学年で「自然の恵みと気象災害」の節にて、「大雨が降ると、土砂災害、洪水、浸水などさまざまな被害をもたらす。」と気象災害について説明し、災害から身を守るための対策を掲載している。
- 第3学年で「地域の自然災害」の節を設定し、気象災害及び地震や火山などの災害について説明している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年の目次のページの二次元コードまたはサイトのアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。また、巻末資料の「基本操作」の二次元コードから動画にアクセスできるようにしている。

1 知識及び技能の習得

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 各単元末に、基本事項を確認する「学習のまとめ ステップ1」、問題演習を行う「学習のまとめ ステップ2」を設けている。また、第2、3学年の巻末には「ステップ3 読解力強化問題」も設けている。さらに、学年の巻末に問題演習を行う「思考をさらに深める」を設けている。
- つまづきやすい計算については、巻末に「計算問題 例題」を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、吹き出しで実験操作のコツの説明や注意事項にマークを付している。
- 第1学年の巻末の「基本操作」に、「理科室の使い方」として安全に探究を行うために、探究前、探究中、探究後の注意事項が示している。また、事故が起きた場合の応急処置の方法や実験中に地震が起きたときの対処方法、薬品や廃液、ガラスの破片の扱いを掲載している。
- 第1学年と第2学年の「基本操作」に、顕微鏡の各部の名称や操作手順、倍率の求め方を掲載している。また、第2学年では、倍率と視野の明るさの関係を説明したり、試料が見えづらい事例を写真で3例掲載し、対処の方法を説明している。

2 思考力、判断力、表現等の育成

視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 各学年の巻頭に「理路整然 どうする、探究の進め方」として探究の進め方を10段階で設定している。
- すべての観察・実験を「探究」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元のはじめに「学びのあしあと」として、単元を学ぶ前と、学んだ後で、自分の考えがどのように変化したか振り返りができるようにしている。また、できるようになりたい目標を示した「Can-Do List」を設置している。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各単元のはじめに「ふり返ろう・つなげよう」を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- AB判

第1学年 262 ページ (約 610 g) 第2学年 302 ページ (約 700 g) 第3学年 302 ページ (約 700 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 第2学年で「気象に関わる恵み・災害」の節にて、「集中豪雨」「竜巻」についての説明や写真を記載している。
- 第3学年で「自然の恵みと災害」の章を設定し、「身のまわりで自然の資源をどのように利用しているか。自然災害に対してどのような取り組みをしているか。」の調査と議論の活動を設定している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各ページの上端の二次元コードから学習を広げるウェブコンテンツにアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。

1 知識及び技能の習得

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 各章末に、学習内容を振り返る「要点をチェック」を設けている。また、単元末に、基本事項を確認する「要点と重要語句の整理」と問題演習を行う「基本問題」「活用問題」を設けている。さらに、各学年の巻末に問題演習を行う「学年末総合問題」も設けている。
- つまづきやすい内容には、「例題」、「解き方」、「練習」を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験操作の注意事項にマークを付している。注意事項等は、5種類のマークで示している。
- 各学年の「基礎技能」に、「理科室のきまりと応急処置」として、実験前、実験中、実験後のきまりをチェックリストにしている。また、事故が起きた場合の応急処置の方法の紹介、可燃性の薬品や残った薬品の扱い方、加熱した金属の扱いを掲載している。さらに、地震が起きたときや感染症が広がっているときの対処方法をチェックリストにしている。
- 各学年の「基礎技能」に、顕微鏡の各部の名称や操作手順を掲載している。

2 思考力、判断力、表現等の育成

視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 各学年の巻頭に「探究の進め方」として、探究の過程を7段階で示し、観察・実験によって得られた結果を考察するように設定している。
- 第1学年に4箇所、第2学年に6箇所、第3学年に5箇所「疑問から探究してみよう」として、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元のはじめに「学んでいくこと」として各章の内容をこれまで学習した関連した内容とともに掲載している。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各章のはじめに二次元コードから「これまでの学習のおさらい」にアクセスできるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して2箇所ある。うち、本市に関連した資料が1箇所あり、三角州を、写真を付して掲載している。
- AB判
第1学年 291 ページ (約 615 g) 第2学年 315 ページ (約 664 g) 第3学年 347 ページ (約 725 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 第2学年で「雨や雪、風が人間生活を襲うとき」の節にて、「大雨は、河川の氾濫や崖崩れなどをもたらす、建物や田畑の浸水、住居や道路の埋没などを引き起こすことがある。(略)」と説明し、災害から身を守るために気象庁の情報とハザードマップでの備えや対策を掲載している。
- 第3学年で「自然災害と私たち」の章を設定し、「身近な地域で起こった過去の自然災害と現在の対策について調べてみよう」の活動を設定している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各ページの二次元コードおよびサイトのアドレスから、「実験道具の使い方」「Web ずかん」「要点チェック」等に学習を補足するコンテンツにアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。

1 知識及び技能の習得

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「Review—ふり返ろう」を設け、二次元コードから問題演習、ふり返りシートへアクセスできるようにしている。また、各単元末に基本事項を確認するための「学習のまとめ」と問題演習を行う「力だめし」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようにしている。さらに、各学年の巻末に、問題演習を行う「学年末総合問題」を設け、第3学年の巻末には、問題演習を行う「中学校総合問題」も設けている。
- つまづきやすい内容には、「例題」、「考え方」、「練習」を設けている。また、「練習」については、二次元コードから「解説動画」へアクセスができるようにしている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験操作の注意事項にマークを付している。注意事項等は、9種類のマークで示している。
- 各学年の「サイエンス資料」で、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、廃液や廃棄物の処理、「気をつけたい実験操作」を示し、事故が起きた場合の対処方法、応急処置の方法も掲載している。さらに、実験中に地震が起きたときの対処を「地震発生直後」「ゆれがおさまったら」に分けてチェックリストにしている。
- 第1学年と第2学年の「サイエンス資料」に、顕微鏡の各部の名称と操作手順、プレパラートのつくり方、拡大倍率の求め方を掲載し、二次元コードから「解説動画」へアクセスできるようにしている。また、第2学年では、「顕微鏡Q&A」に資料が見えづらい事例を写真で3例掲載し、対処の方法を説明している。さらに、「ICTでトライ」にICT機器を使用した記録方法を掲載している。

2 思考力、判断力、表現等の育成

視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 各学年の巻頭に「探究をはじめよう」として、探究の過程を「課題の把握」「課題の追及」「課題の解決」の3つの活動を設定し、その活動内容を8段階で示し、考察の後に口頭発表やレポートなどで表現するように掲載している。また、巻末に「探究の流れと探究のふり返り」として、探究の説明をチェックリストにし、つまづきと解決のヒントを掲載している。
- 各学年4箇所、各単元にある1つの実験・実習を「探Q実験・実習」として、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。また、巻末に探Q実験・実習に対応した「探Qシート」を設けている。さらに、「みんなで探Qクラブ」として、学習内容から生じた疑問を探究する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元のはじめに、「学びの見通し」として、各章の題名を掲載している。また、この単元で学ぶ内容を、吹き出しの中にて身近な例を出して説明している。さらに、各章のはじめにある二次元コードから章の学習内容に関連する動画を掲載している「はてなスイッチ」にアクセスできるようにしている。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各単元のはじめと終わりに、「学ぶ前にトライ」「学んだ後にリトライ」を設けて、その単元を学ぶ前と後で、自分の考えがどのように変わったか振り返りができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して7箇所ある。うち、本市に関連した資料が3箇所あり、広島市の露頭、三角州とこども文化科学館を、写真を付して掲載している。

○ AB判

第1学年 284 ページ (約 590 g) 第2学年 308 ページ (約 635 g) 第3学年 340 ページ (約 700 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 各校の実状に合わせて学習順序を組み替えられるよう、単元は全学年同じ配列にしている。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 第2学年で「天気の変化がもたらす恵みと災害」の節にて、「天気の変化は、地域によって特徴がある。住んでいる地域に特徴的な天気の変化や、その結果もたらされる災害についてを知り、備える必要がある。」と説明し、各地域での天候に対する工夫を示している。また、観測結果や予測を参考にすることで防災・減災につながることを示している。
- 第3学年で「自然が人間の生活におよぼす影響」の章を設定し、「地域の自然災害の調査」の活動を設定している。また、考えるための視点を補足するために「な・る・ほ・ど」を掲載している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年の各ページに掲載された二次元コードおよびサイトのアドレスから、実験器具の「解説動画」「補足資料」「Web リンク」等、学習を補足するデジタルコンテンツにアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「知識及び技能の習得や、それらを活用すること、観察実験の結果を分析・解釈することに課題が見られる。」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 新興出版社啓林館の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「Review—ふり返ろう」を設け、二次元コードから問題演習、ふり返りシートへアクセスできるようにしている。また、各単元末に基本事項を確認するための「学習のまとめ」と問題演習を行う「力だめし」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようにしている。さらに、各学年の巻末に、問題演習を行う「学年末総合問題」を設け、第3学年の巻末には、問題演習を行う「中学校総合問題」も設けている。
- ・ 各学年の「サイエンス資料」で、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、廃液や廃棄物の処理、「気をつけたい実験操作」を示し、事故が起きた場合の対処方法、応急処置の方法も掲載している。さらに、実験中に地震が起きたときの対処を「地震発生直後」「ゆれがおさまったら」に分けてチェックリストにしている。
- ・ 各学年4箇所、各単元にある1つの実験・実習を「探Q実験・実習」として、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。また、巻末に探Q実験・実習に対応した「探Qシート」を設けている。さらに、「みんなで探Qクラブ」として、学習内容から生じた疑問を探究する活動を設定している。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「章末 学んだことをチェックしよう」を設け、二次元コードから章末問題へアクセスできるようにしている。また、各単元末に、基本事項を確認するための「学習内容の整理」と問題演習を行う「確かめ問題」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようになっている。さらに、知識を深める問題演習の「活用問題」を設けている。
- ・ 各学年に「理科室の決まり」として、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、事故が起きた場合の応急処置の方法と、実験中に地震が起きたときの対処方法を掲載している。さらに第1学年では、1枚のイラストから誤った行動を10個見つける活動を設定している。
- ・ 第1学年に4箇所、第2学年に5箇所、第3学年に4箇所「じっくり探究」として、探究の過程の流れに沿って疑問を解決する活動を設定している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科　〔　音　楽　〕　種目〔　一　般　〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [音 楽] 種目 [一 般]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを併設した文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団による西洋音楽をはじめとし、能や民謡等様々なジャンルの音楽に触れる機会に恵まれた地域である。
- 本市の生徒の実態として、各学校における文化祭や「文化の祭典」等において表現活動の学習成果を発表する機会があること、また、ネット環境や情報機器の充実により音楽に関する情報を得やすくなったことから、学校生活だけでなく、日常生活の中で音楽に親しんでいる生徒が多い。一方で、生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあることから、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすることについて課題がある。また、音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりすることについて課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 表現領域の知識及び技能の習得を図るための工夫 ② 鑑賞領域の知識の習得を図るための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 音楽表現を創意工夫するための工夫 ④ 音楽のよさや美しさを味わって聴くための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑦ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方 ⑧ 〔共通事項〕の指導を充実させるための工夫 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

1 知識及び技能の習得

視点① 表現領域の知識及び技能習得を図るための工夫

- 第1学年に3か所、第2・3学年上に1か所、「Sing! Sing!」を設け、歌唱の知識及び技能習得に関する事項を示している。
 - 〈第1学年〉
 - ・ 歌うための準備
 - ・ 言葉の発音について
 - ・ 変声と混声合唱
 - 〈第2・3学年上〉
 - ・ 歌うための準備
- 第1学年と第2・3学年下「Let's Try!」で、「指揮をしてみよう」のページを設け、指揮をするための基本的なポイントを、文と図で示している。また、指揮者の言葉を参考にして考えるよう促している。
- 歌詞に込められた思いについて、作詞者からの言葉を掲載している。
- 各学年の創作教材について、「音のスケッチ」の中で、活動の進め方を活動1、活動2、活動3…と順に示し、短い文で説明している。また、ワークシートや作品例を掲載している。

視点② 鑑賞領域の知識の習得を図るための工夫

- 歌唱分野における学習内容の記載
 - ・ 「Active!」では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫などについて直接書き込む部分を設けている。また、考えたことを友達と交流したり歌ってみたりする活動を設定している。
 - 【例】第1学年「『サウンド・オブ・ミュージック』から」
- 創作分野における学習内容の記載
 - ・ 「音のスケッチ」では、創意工夫するための活動のポイントを文章で示している。また、生徒や教師の発言を想定した吹き出しで思考を促したり、友達と交流する活動を設けたりしている。
 - 【例】第1学年「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 音楽表現を創意工夫するための工夫

- 歌唱分野における学習内容の記載
 - ・ 「Active!」では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫などについて直接書き込む部分を設けている。また、考えたことを友達と交流したり歌ってみたりする活動を設定している。
 - 【例】第1学年「『サウンド・オブ・ミュージック』から」
- 創作分野における学習内容の記載
 - ・ 「音のスケッチ」では、創意工夫するための活動のポイントを文章で示している。また、生徒や教師の発言を想定した吹き出しで思考を促したり、友達と交流する活動を設けたりしている。
 - 【例】第1学年「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」

視点④ 音楽のよさや美しさを味わって聴くための工夫

- 鑑賞領域における学習内容の記載
 - ・ 活動内容を文章で示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや魅力などについて、書き込む表や枠を設けている。
 - 【例】第2・3学年上「交響曲第5番 ハ短調 作品67」
 - ・ 生徒や教師の発言を想定した吹き出しで、聴くポイントを示したり学習活動を促したりしている。
 - 【例】第1学年「魔王」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 全学年の巻頭に、音楽家のメッセージや写真を掲載する「With My Heart 音楽はメッセージ」、「作者の思いにふれる」のページを設けている。
- 「目次」では、領域を色分けして示すとともに、創作活動、鑑賞教材、共通教材にはアイコンを付している。
- 比べて学びを深める教材には、「比べてみよう」のアイコンを、ページ数とともに下側に付している。
- 「学習 MAP」では、育成を目指す資質・能力とともに領域・分野ごとに色分けをして図示し、各領域・分野の相互の関連を点線で繋ぎ、1年間の学習の流れを示している。
- 各題材名は、「学習 MAP」と同じ色を付して、題材冒頭の見開き左側に縦書きで示している。また、活動のポイントを、題材冒頭の見開き左上に横書きで示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

- 内容の構成は、以下の通りである。
〈領域・分野〉「歌唱」「鑑賞」「創作」
〈資料等〉音楽を形づくっている要素、Sing! Sing! (第1学年及び第2・3学年上掲載)、Let's Try!、資料、歌のアルバム、全校合唱、国歌
- 各学年の目次に示された領域ごとの教材数については、次のとおりである。
〈第1学年〉 歌唱：22 創作：2 鑑賞：7
〈第2・3学年上〉 歌唱：20 創作：2 鑑賞：8
〈第2・3学年下〉 歌唱：17 創作：2 鑑賞：6
※ 歌唱の中に「歌のアルバム (国歌含む)」の楽曲を含む。
- 3年間で全ての共通教材を掲載している。
- 各領域・分野において、我が国の音楽や郷土の伝統音楽など、日本の文化と関連のある教材や活動を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方

- 音楽科と各教科等との関連を意識した教材や資料を掲載している。
- 第2・3学年上「私たちのくらしと音楽」で、音楽著作権について掲載している。
- 第2・3学年下「ポピュラー音楽図鑑」で、4ページにわたり、代表的なポピュラー音楽の起源や特徴について、代表的なアーティストの写真やイラストを付して説明している。
- 第1学年「郷土の様々な民謡」、「日本とアジアの声による様々な表現」、第2・3学年上「郷土の音楽や芸能」、第2・3学年下「世界のさまざまな芸能や音楽」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて示している。
- 第2・3学年下「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」で、2ページにわたり、アウトリーチや音楽を通した教育活動について、それぞれの活動場面の写真とともに掲載している。
- 各学年のSDGsとの関連がある教材や資料には、関連するアイコンを付している。

視点⑧ 〔共通事項〕の指導を充実させるための工夫

- 全学年の「学習MAP」で、共通事項を軸にした「学習の進め方」を掲載している。
- 教材に関連する音符や記号等の名称について、巻末の「楽典」で掲載されているページ数と共に、見開き右側に示している。
- 巻末「楽典」に、用語や記号などを掲載している。
- 全学年に掲載されている「どんな特徴があるかな？」において、音楽を形づくっている要素を集約し整理したものを図示するとともに、音楽を形づくっている要素の働きについて、演奏したり聴いたりして確認できるような学習活動を掲載している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 全学年、活動を促したり考えを深めたりできるよう、生徒や教師を想定したイラストと共に、発言を想定した吹き出しを付して示している。
- 共通教材では、教材が表す情景の写真に掲載している。教材によっては、縦書きの歌詞や作詞・作曲者の紹介などと共に見開き2ページにわたり写真を掲載し、次のページに活動のポイントや楽譜などを掲載している。
- 我が国や郷土の伝統音楽について、楽器や楽譜、実際の場面の写真を掲載したり、図や文で説明したりしている。
- 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、「見る」、「聴く」、「記録する」に分類された「まなびリンク」のアイコンを付している。巻頭の二次元コードまたはURLからは、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。

1 知識及び技能の習得

視点① 表現領域の知識及び技能習得を図るための工夫

- 第1学年に1か所、第2・3学年上に2か所、第2・3学年下に1か所、「My Voice!」を設け、歌唱に関する事項を示している。
 - 〈第1学年〉 ・ 自分の歌声を見つけよう
 - 〈第2・3学年上〉 ・ 自分の思いを歌声にのせよう ・ 鼻濁音
 - 〈第2・3学年下〉 ・ 豊かな歌声で、気持ちを込めて歌おう
- 各学年の「指揮をしてみよう!」で、指揮をする際の基本的なポイントを、文と図などで示している。また、指揮者からのメッセージを掲載している。
- 歌詞に込められた思いについて、作詞者からの言葉を掲載している。
- 各学年で設けている創作教材について、「My Melody」、「Let's Create!」の中で、活動の進め方を①②③…と順に示し、短い文で説明している。また、ワークシートや作品例を掲載している。

視点② 鑑賞領域の知識の習得を図るための工夫

- 鑑賞教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者などについて解説を掲載している。
- 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族・諸外国の音楽を扱った題材では、音楽の多様性を理解するために、それぞれの音楽の特徴を捉え、比較したり関連付けたりする学習を設けている。
- 第2・3学年下の音楽史年表「耳でたどる音楽史」で、日本や西洋の音楽文化の歴史や代表的な作曲家・楽曲等について、写真や説明文を付した年表とともに掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 音楽表現を創意工夫するための工夫

- 歌唱分野における学習内容の記載
 - ・ 「学びのコンパス」では、学習の手順を示し、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫などについて直接書き込む部分を設けている。また、グループで話し合ったり、いろいろな表現を試したりする活動を設定している。
 - 【例】第1学年「主は冷たい土の中に（静かに眠れ）」
- 創作分野における学習内容の記載
 - ・ 「My Melody」、「Let's Create!」では、創意工夫するための活動のポイントを文章で示している。また、生徒や教師の発言を想定した吹き出しを示して思考を促したり、中間発表の場面を設定した対話を例示したりしている。
 - 【例】第1学年「構成を工夫して、3つの場面の音楽をつくろう」

視点④ 音楽のよさや美しさを味わって聴くための工夫

- 鑑賞領域における学習内容の記載
 - ・ 活動の手順を文章で示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさなどや批評文などを書き込む表や枠を設けている。
 - 【例】第2・3学年上「交響曲第5番 ハ短調」
 - ・ 生徒や教師の発言を想定した吹き出しで、聴くポイントを示したり学習活動を促したりしている。
 - 【例】第1学年「魔王」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 全学年の巻頭に、音楽家のメッセージや写真を掲載するページや、様々な分野で活躍する人物のメッセージを掲載する「音楽ってなんだろう?」のページを設けている。
- 「目次」では、領域を色分けして示すとともに、共通教材にはアイコンを付している。
- 「学習内容」では、育成を目指す資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材の関連度の大小を色の濃さで示している。
- 各学習目標は、「学習内容」と同じ色を付して、題材冒頭の見開き左側に縦書きで示している。また、教材冒頭の見開き左上に、「学習内容」と同じ色を付して、活動文を横書きで示すとともに、「考えたいポイント」を問いかけの言葉で活動文の横に掲載している。
- 各学年に、これまでの音楽の授業で学んだことを振り返る「音楽の学びを振り返ろう」を設定している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

- 内容の構成は、以下の通りである。
 〈領域・分野〉「歌唱」「鑑賞」「創作」
 〈資料等〉発声、リズムで楽しもう（第1学年及び第2学年上）、特集、指揮、資料、歌い継ごう日本の歌、心通う合唱、国歌
- 各学年の目次に示された領域ごとの教材数については、次のとおりである。
 〈第1学年〉 歌唱：20 創作：2 鑑賞：7
 〈第2・3学年上〉 歌唱：18 創作：2 鑑賞：6
 〈第2・3学年下〉 歌唱：17 創作：2 鑑賞：7
 ※ 歌唱の中に「歌い継ごう日本の歌」、「心通う合唱」の楽曲、国歌を含む。
- 3年間で全ての共通教材を掲載している。
- 各領域・分野において、我が国の音楽や郷土の伝統音楽など、日本の文化と関連のある教材や活動を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方

- 音楽科と各教科等との関連を意識した教材や資料を掲載している。
- 第1学年、第2・3学年下「ルールを守って音楽を楽しもう！」で、音楽著作権について取り上げている。
- 第2・3学年下「ポピュラー音楽」で、見開き2ページで、ロック、ジャズ、ボサノヴァの起源や特徴について、代表的なアーティストの写真や楽譜を付して掲載し、よさや美しさを味わって聴く学習を設定している。また、次のページ「ポピュラー音楽のジャンル」で、海外編と日本編に分けて、4ページにわたり、様々なジャンルの相関関係について、写真を掲載して説明している。
- 第1学年「日本の民謡」、「郷土に伝わる民謡を調べよう」、「アジアの諸民族の音楽」、第2・3学年上「受け継ごう！郷土の祭りや芸能」、「世界の諸民族の音楽」、第2・3学年下「世界の諸民族の音楽」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて示している。
- 全学年に「生活や社会の中の音や音楽」を設定し、音や音楽の果たす役割について（第1学年）、音楽を通した人と人とのつながりについて（第2・3学年上）、音楽に関わる仕事について（第2・3学年下）、それぞれの活動場面の写真とともに紹介している。
- 全学年、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」、第2・3学年下「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや音楽」で、地域に伝わる祭りや芸能に取り組んでいる中学生を紹介している。
- 第2・3学年下「生活や社会の中の音や音楽」の中で、音楽教育や楽器とSDGsの関連について掲載している。

視点⑧ 〔共通事項〕の指導を充実させるための工夫

- 全学年の「学習内容」で、音楽を形づくっている要素の一覧を掲載している。
- 各教材の学習に関連する音楽を形づくっている要素について、見開き左ページ下に示している。
- 教材に関連する音符や記号等の名称について、巻末の「楽典」で掲載されているページ数と共に、見開き右側に示している。
- 巻末「音楽の約束」で、用語や記号などを掲載している。
- 巻末に「音楽を形づくっている要素」において、学習に活用したり振り返ったりすることができるよう、それぞれの要素について、イラストや楽譜、関連教材のページ等を付して掲載している。また、第1学年では、音楽を形づくっている要素の働きについて、演奏したり聴いたりして確認できるような学習活動を掲載している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 全学年、活動を促したり考えを深めたりできるよう、生徒や教師を想定したイラストと共に、発言を想定した吹き出しを付して示している。
- 共通教材では、教材が表す情景を写真で示している。教材によっては、縦書きの歌詞や作詞・作曲者の紹介などと共に見開き2ページにわたり写真を示し、次のページに学習目標や楽譜などを示している。
- 我が国や郷土の伝統音楽について、楽器や楽譜、実際の場面の写真を掲載したり、図や文で説明したりしている。
- 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、「動画」、「音源」、「創作ツール」、「画像」、「文章、ワークシート」に分類されたアイコンと内容を示した二次元コードを付している。巻頭の二次元コードからは、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあり、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすること」や、「音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりすること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」をもとに審議した。

意見1 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 音楽表現を創意工夫することができるよう、学習内容や手順を示し、知覚・感受したことや表現の工夫などを記述する場面を設定したり、作品例やワークシートを掲載したりしている。また、生徒や教師のキャラクターに吹き出しを付し、各学習場面において気付きや思考を促したり、友達と意見交換する場面での対話を例示したりしている。
- ・ 音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるよう、学習の手順を示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲の批評文などを書き込む部分を設けている。
- ・ 生徒が、主体的に生活や社会の中にある様々な音や音楽に関わるができるよう、音や音楽の果たす役割や音楽に関わる仕事などを紹介する特集を、写真やイラストとともに全学年に掲載している。
- ・ 我が国や郷土の伝統的な音楽、アジア地域の諸民族・諸外国の音楽、ポピュラー音楽など、多様な音楽を扱う教材や資料を掲載している。また、生徒が親しみをもつことができるよう、特集や裏表紙で、地域に伝わる祭りや芸能に関わる同世代の中学生の取り組みを紹介している。

意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

- ・ 音楽表現を創意工夫することができるよう、学習内容や手順を示し、知覚・感受したことや表現の工夫などを記述する場面を設定したり、作品例やワークシートを掲載したりしている。また、生徒や教師のキャラクターに吹き出しを付し、各学習場面における気付きや思考を促している。
- ・ 音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるよう、学習内容を示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさなどを書き込む部分を設けている。
- ・ 生徒が、主体的に生活や社会の中にある様々な音や音楽に関わるができるよう、アウトリーチや音楽を通した教育活動について、写真とともに紹介する特集を設けている。
- ・ 我が国や郷土の伝統的な音楽、アジア地域の諸民族・諸外国の音楽、ポピュラー音楽など、多様な音楽を扱う教材や資料を掲載している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔音楽〕 種目〔器楽合奏〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [音 楽] 種目 [器楽合奏]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを併設した文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団による西洋音楽をはじめとし、能や民謡等様々なジャンルの音楽に触れる機会に恵まれた地域である。
- 本市の生徒の実態として、各学校における文化祭や「文化の祭典」等において表現活動の学習成果を発表する機会があること、また、ネット環境や情報機器の充実により、音楽に関する情報を得やすいことから、学校生活だけでなく、日常生活の中で音楽に親しんでいる生徒が多い。一方で、生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあることから、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすることについて課題がある。また、音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫することについて課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 器楽分野の知識及び技能の習得を図るための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 音楽表現を創意工夫するための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	④ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑤ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方 ⑥ 〔共通事項〕の指導を充実させるための工夫 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 器楽分野の知識及び技能の習得を図るための工夫

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて説明している。また、打楽器については、巻末の資料で扱っている。
- リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを、文や吹き出しで示している。
- ギターの奏法として、ストローク奏法、アポヤンド奏法、アル・アイレ奏法を掲載している。
- 箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八のページで、口唱歌を示し、唱歌を唱え、楽器を演奏する活動を掲載している。
- 巻末に、「リコーダー運指表」と「ギター&キーボード コード表」を掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 音楽表現を創意工夫するための工夫

- 題材の目標や教材ごとに示された活動のポイントの文の中で、曲にふさわしい表現を工夫するように促している。
- 【例】ブランブルク協奏曲第2番から第2楽章
 - ・ 二つの旋律の関わりを生かして表現を工夫しよう。
- 「音のスケッチ」では、器楽を扱った創作教材について、学習の手順を示している。また、楽譜や演奏例などを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 「目次」では、各楽器を色分けして示している。
- 各楽器のページでは、見開き左上に題材の目標を示すとともに、まとめの曲を掲載している。また、教材ごとに活動のポイントを文で示している。
- 「Let's Play!」、「Let's Try!」では、様々な編成やジャンルの曲を掲載している。
- 「名曲旋律集」では、有名なクラシック音楽やゲーム音楽など様々なジャンルの曲を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点④ 題材や資料等の配列・分量

- 内容の構成は、以下の順である。
 - ① リコーダー ② 篠笛 ③ 尺八 ④ ギター ⑤ 箏 ⑥ 三味線 ⑦ 太鼓
 - ⑧ Let's Play! ⑨ Let's Try! ⑩ 名曲旋律集 ⑪ 資料
- 楽器別教材数、合奏・アンサンブルの教材数は次のとおりである。

・ リコーダー	20曲	・ 太鼓	※
・ ギター	6曲	・ 篠笛	6曲
・ 箏	6曲	・ 尺八	1曲
・ 三味線	1曲	・ 合奏・アンサンブル	31曲

※ 太鼓の教材は「合奏・アンサンブル」に1曲あり
- 「表現の仕方を調べよう PART-1・2」のページでは、奏法が似ている3つの楽器を聴き比べ、楽器の特徴を捉える学習を示している。リコーダー、箏、三味線については、各楽器の最後のページで、鑑賞教材を1・2曲掲載している。
- 器楽を用いた創作活動「音のスケッチ」を5教材掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑤ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方

- 巻頭「LET'S PLAY MUSIC」では、各楽器や演奏に関する写真を、関連するページ数とともに掲載している。また、「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、公共の場に置かれたストリートピアノについて掲載している。
- 和楽器の学習では、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓のページで、楽器の起源や発展、縦譜、文化譜、唱歌など、日本の音楽文化と関連するものを掲載している。太鼓については、祭りや現代曲の中で使用されている場面の写真を掲載している。
- 「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」では、諸外国の楽器を紹介している。また、それらの背景にある文化や伝統について調べたり、テーマに沿って比較したことなどを記述したりする学習を設定している。
- SDGs との関連がある特集に、アイコンを付して掲載している。

教 育 出 版	視点⑥ 【共通事項】の指導を充実させるための工夫 ○ 音楽を形づくっている要素について、題材の目標や各教材の活動の中で、関連する学びのポイントを文章で示している。 ○ 巻末「いろいろな用語、記号」に、用語や記号などを掲載している。 視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ○ 生徒や教師を想定したイラストに、吹き出しを付し、学習のヒントを示している。 ○ リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓それぞれのページで、演奏の姿や、構え方、奏法別の手元など、本文の記述や内容に応じた写真を掲載している。 ○ 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、そばに「見る」「聴く」「記録する」に分類された「まなびリンク」のアイコンを付している。巻頭の二次元コードまたはサイトのアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。
------------------	--

1 知識及び技能の習得

視点① 楽器分野の知識及び技能の習得を図るための工夫

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八、打楽器）の各部分の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて説明している。
- リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを、文やQ&A方式で示している。
- ギターの奏法として、ストローク奏法、アポヤンド奏法、アルアイレ奏法を掲載している。
- 箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八のページで、口唱歌を示し、唱歌を唱え、楽器を演奏する活動を掲載している。
- 巻末に「リコーダーの運指表」と「ギター／キーボードコード表」が掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 音楽表現を創意工夫するための工夫

- 活動文や教材ごとに示された学習のポイントを示した文の中で、曲にふさわしい表現を工夫するよう促している。
- 【例】「聖者の行進」
 - ・ アーティキュレーションを参考にしながら、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しよう。
- 「アンサンブルセミナー」と示された教材全てに「学びのコンパス」を設定し、学習の手順を示している。また、注目するポイントについて、音楽を形づくっている要素で示したり、生徒や教師を想定したイラストに吹き出しで思考を促したりしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 「目次」では、各楽器を色分けして示している。
- 各楽器のページでは、教材ごとに学びのポイントを示している。リコーダーについては、LESSONごとに活動のポイントを文で示している。
- 「アンサンブル」では、様々な編成やジャンルの曲を掲載している。
- 「楽器でMelody」では、有名なクラシック音楽やJ-POPなど様々なジャンルの曲を掲載している。「学習内容」のページでは三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材との関連の大小を色の濃さで示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点④ 題材や資料等の配列・分量

- 内容の構成は、以下の順である。
 - ① リコーダー ② ギター ③ 箏 ④ 三味線 ⑤ 太鼓 ⑥ 篠笛 ⑦ 尺八
 - ⑧ 打楽器 ⑨ アンサンブル ⑩ 楽器でMelody ⑪ 資料
- 楽器別教材数、合奏・アンサンブルの教材数は次のとおりである。

・ リコーダー	14曲	・ 太鼓	※
・ ギター	2曲	・ 篠笛	3曲
・ 箏	6曲	・ 尺八	1曲
・ 三味線	1曲	・ 合奏・アンサンブル	25曲

 ※ 太鼓の教材は「合奏・アンサンブル」に1曲あり
- 各楽器の最初のページに、「〇〇の演奏を聴こう」というコーナーを設け、各楽器に鑑賞曲を2・3曲掲載している。
- 器楽を用いた創作活動「My Melody」を1教材掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑤ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方

- 巻頭では、打楽器奏者の言葉や写真を掲載している。また、「音楽ってなんだろう？」では、世界各国の伝統的な楽器や祭りに使われている楽器の写真と共に、音楽・文芸批評家の言葉を掲載している。
- 和楽器の学習では、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八のページで、楽器の起源や発展、縦譜、文化譜、唱歌など、日本の音楽文化と関連するものを掲載している。また、各楽器の様々な演奏や、郷土の祭りや芸能で使用されている場面の写真を掲載している。
- 打楽器のページにおいて、世界の様々な楽器について、奏法と共に掲載している。また、巻末の「楽器の図鑑」では、世界の様々な楽器を、種類別に整理して掲載している。
- 巻末の「楽しもう！ 和楽器の音楽」で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組んでいる中学生を紹介するとともに、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。

教 育 芸 術 社	視点⑥ 【共通事項】の指導を充実させるための工夫 ○ 「学習内容」において、音楽を形づくっている要素について、説明と共に一覧で掲載している。 ○ 音楽を形づくっている要素について、「アンサンブル セミナー」のページでは、関連する学びのポイントを文章で示したり、学習目標の下にアイコンで示したりしている。 ○ 巻末「音楽の約束」に、用語や記号などを掲載している。 視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ○ 生徒や教師を想定したイラストに、吹き出しを付し、学習のヒントを示している。 ○ リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器それぞれのページで、演奏する姿や構え方、奏法別の手元など、本文の記述や内容に応じた写真を掲載している。 ○ 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、そばに「動画」「音源」「創作ツール」「文章、ワークシート」に分類されたアイコンと内容を示した二次元コードを付している。各教材の二次元コードから、教材ごとに関連するウェブコンテンツを利用できるようになっている。
-----------------------	---

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあり、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすること」や、「音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫すること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」をもとに審議した。

意見1 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「学びのコンパス」において、学習の内容や手順を示したり、吹き出しを付した生徒や教師のキャラクターを複数掲載したりして、生徒の思考を促している。また、音楽表現を創意工夫するための注目するポイントについて、[共通事項]に示された「音楽を形づくっている要素」の具体例で示している。
- ・ 郷土の祭りや芸能で和太鼓が使われている場面や、様々なジャンルの楽器と和楽器が共演している場面の写真が掲載されている。また、同世代の中学生が、和楽器の演奏に取り組んでいる様子を、写真やインタビューとともに掲載されている。

意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

- ・ 「音のスケッチ」において、学習の内容や手順を示している。また、音楽表現を創意工夫することができるよう、演奏の例を示している。
- ・ 郷土の祭りや現代曲での太鼓演奏の例が、写真で掲載されている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔美術〕 種目〔美術〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [美術] 種目 [美術]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市街地周辺に、広島市現代美術館や広島県立美術館など、美術作品等に直接触れることができる文化的施設が多い。また、山林を主体とした自然豊かな地域や瀬戸内海に面した風光明媚な沿岸部など、変化に富んだ様々な環境が見られる地域もある。
- 広島市中学校教育研究会美術部会や校内研修で行った研究授業から、本市の生徒の実態として、想像することの楽しさを感じており、美術科の学習に意欲的に取り組んでいることが挙げられる。一方で、感性や想像力を働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に働かせながら育成することと、生活を美しくする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することには課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 造形的な視点を豊かにするための工夫 ② 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着に向けた工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 豊かに発想し構想を練るための工夫 ④ 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがされたウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 造形的な視点を豊かにするための工夫

- キャラクターのコメントで示している。
「奥行きや構図などの空間の表し方や、光や色彩の表し方に注目しよう。」
「色彩を工夫すると、色彩そのものだけでなく空間や立体感なども表すことができるんだね。」
- 生徒作品の「作者のこぼれ」に表現意図とともに示している。
「天気がよく、道に太陽の光が当たる様子を見て晴れ晴れとした気持ちになったので、木漏れ日を強調して描きました。」
「遠くの雲のすき間から見える夕日と目の前の電線のコントラストがとてもきれいでした。」

視点② 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着に向けた工夫

- 形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法に関する内容を巻末資料に掲載している。

【美術1】

- | | | |
|----------------|-----------|-------------|
| 「文字のデザイン」 | 「著作権を知ろう」 | 「発想・構想のヒント」 |
| 「鑑賞ってなんだろう」 | 「美術館へ行こう」 | 「色彩と光」 |
| 「用具を知って使ってみよう」 | | |

【美術2・3】

- | | | |
|-------------|----------|------------|
| 「展覧会をつくる」 | 「奥行きの表現」 | 「美術史の扉」 |
| 「量感の表現」 | 「余白の美」 | 「紙の表現」 |
| 「これってどう撮るの」 | 「共に学ぶ美術」 | 「持続可能な未来へ」 |
| 「世界遺産と美術」 | 「日本の伝統色」 | 「美術と私と社会」 |

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 豊かに発想し構想を練るための工夫

- 発想・構想のポイントを示す特設ページを設けている。
- 【鑑賞】 [発想・構想] [知識・技能] を標記し、相互に関連した学習の流れを示している。
[鑑賞] 人の目を引き付ける表し方のよさや工夫に注目しながら、作品を鑑賞しよう
「発想・構想」地域の魅力を紹介するポスターの構成を考えよう
「知識・技能」見た人の心にとまるように表現方法を工夫しよう
- 活動の順序を生徒の活動の写真とともに、番号と文で示している。
 - ① 紹介したい地域の魅力や、ポスターに掲載する情報などの内容を整理しよう。
 - ② その場所へ行って、スケッチをしたり写真を撮ったりして取材をしよう。
 - ③ 伝えたい情報のイメージを大切に、ポスターの全体を見ながら図の大きさやキャッチコピー、文字の書体、配色の検討をしよう。
 - ④ 完成作品
 - ⑤ 作品を掲示して、たくさんの人に見てもらおう。
- 活動の写真に吹き出しで、生徒の思考を掲載している。
「どこに掲示して、誰に何を伝えるためのポスターをつくらうか。」
「コンピュータを使うと何度でも試すことができるね。」

視点④ 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めるための工夫

- 巻末に見開き2ページで、鑑賞活動の流れやポイント等を示している。
[作品と向き合おう]
[自分なりの根拠をもって意味づけよう]
[様々な視点から見よう]
[見方や考え方はたくさんある だから伝え合おう]
- 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版に掲載したり、作品の一部や全体を原寸大で掲載したりしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭で作家の作品と制作風景、作家から生徒に対するメッセージを掲載している。
- 小学校の学びや社会とのつながりについて示す特設ページを設けている。
- 表現と鑑賞を関連させた学習の流れや教科書の使い方を、キャラクターの吹き出しで示す特設ページを設けている。
- 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

○ ページ数・版型

【美術1】 71ページ・A4ワイド版

【美術2・3】 127ページ・A4ワイド版

○ 題材数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数 合計
	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞	
【美術1】	5	1	4	1	11
【美術2・3】	8	5	7	2	22

○ 学びの資料

【美術1】 15ページ

【美術2・3】 30ページ

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 複数の題材で生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等を掲載している。
- デザインや工芸などの葉に目に特設ページを設け、生活と美術の関わりを示している。
- 社会と美術の働きのつながりを示す特設ページを設けている。
- 複数の題材でSDGsの目標に関連する内容を、マークを付したりコーナーを設けたりして示している。
- SDGsと美術の関わりについて具体的に示す特設ページを設けている。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがされたウェブコンテンツ等の示し方

- 各題材において、「CONTENTS」に二次元コードを示している。
- 特設ページに、二次元コードを示している。

1 知識及び技能の習得

視点① 造形的な視点を豊かにするための工夫

- 「POINT」に示している。

「色づかいや表現方法から、作者の心の中の風景を想像してみよう。」

「作者は自分の思いを表すために、形や色にどんな工夫をしているだろう。」

- 生徒作品の「作者の言葉」に表現意図とともに示している。

「家族で行ったタイ旅行の最終日に、デパートの屋上駐車場から見た市場の風景です。まだ帰りたくない寂しさを青などの寒色系の色で、旅行中に感じた楽しさを黄色や赤などの暖色系の色で表しました。」

「2本の木で親友と僕自身を表し、その二人を包み込むように、両端に木の枝を描きました。昔、親友と遊んだときの温かい気持ちを表すために、木の周りをオレンジ色で塗りました。」

視点② 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着に向けた工夫

- 形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法に関する内容を巻末資料と別冊資料に掲載している。

【美術1】

「美術館を楽しもう」

「芸術祭へ行こう」

「美術鑑賞を楽しむ手がかり」

【美術2・3】

「学習を支える資料一覧」

「仏像について知ろう」

「美術史年表」

「日本の伝統工芸」

「北と南の民族衣装」

【美術1資料】

「どうやって描く？」

「鉛筆で描く」

「水彩絵の具で描く」

「アクリル絵の具で描く」

「さまざまな描き方」

「版画で表す」

「文字をデザインする」

「端末を活用する」

「どんな材料でつくる？」

「紙でつくる」

「粘土でつくる」

「木でつくる」

「金属でつくる」

「石でつくる」

「写真を撮影する」

「映像を制作する」

「自然の中の形・色・光」

「光から生まれる色」

「色の世界に出会う」

「色の特徴」

「色の効果と配色」

「日本と世界の伝統色図鑑」

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 豊かに発想し構想を練るための工夫

- 発想・構想のポイントを示す特設ページを設けている。

- 【鑑賞】【表現（発想・構想）】【鑑賞】を標記し、相互に関連した学習の流れを示している。

【表現（発想・構想）】メッセージを伝えるポスターをデザインする

【鑑賞】メッセージを伝える、さまざまなデザインの例を見てみよう。

- 「みんなの工夫」のコーナーを設け、生徒の制作における試行錯誤の過程を掲載している。

【青色の吹き出し】

「近所の海岸に、たくさんのごみが落ちている。この問題をポスターで伝えるには、どうすればよいだろう。」

「CO₂削減を促進するポスターをつくりたい。どんなデザインにしたらよいだろう。」

【白抜きの吹き出し】

「どんなごみが落ちているか、写真を撮って記録しよう。」

「汚れた海だけを描くより、苦しんでいる魚の姿を描いた方が、伝わりやすいかも。」

「たくさん撮ったごみの写真をコラージュして、魚の形にしたらどうだろう。」

「CO₂削減にも、いろいろな方法があるな。みんなが気軽に取り組めることって、何だろう。」

「地域の人に、自転車の活用を勧めよう。どんなポスターなら伝わるかな。」

「人物の服の色をどんな色にすれば、赤い矢印が引き立つかな。」

視点④ 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めるための工夫

- 「美術作品はどう見たらいいのだろう？」のコーナーを設け、鑑賞活動のポイントを1ページで示している。

- 巻末に見開き2ページで、鑑賞活動の流れやポイントを示している。

【①じっくり見る】

【②自分なりに考える】

【③調べる】

【④まとめる】

【美術鑑賞を広げる言葉】

- 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載したり、作品の一部や全体を原寸大で掲載したり、紙質を変えて掲載したりしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭で作家や生徒が日常の中の美しさを表現した写真作品を掲載している。
- 小学校の学びや社会とのつながりについて示す特設ページを設けている。
- 表現と鑑賞を関連させた学習の流れや教科書の使い方を吹き出しと矢印で示す特設ページを設けている。
- 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

- ページ数・版型

【美術1】 69ページ・A4ワイド版

【美術1資料】 35ページ・A4版

【美術2・3】 107ページ・A4ワイド版

- 題材数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数 合計
	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞	
【美術1】	8	3	5	3	19
【美術2・3】	7	7	5	5	24

- 学びを支える資料

【美術1】 4ページ

【美術1資料】 35ページ

【美術2・3】 10ページ

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 複数の題材で道徳科やその他教科との関連について示している。
- 複数の題材で生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等を掲載している。
- デザインや工芸などのはじめに特設ページを設け、生活と美術の関わりを具体的に示している。
- 社会と美術の働きのつながりを示す特設ページを設けている。
- 複数の題材でSDGsの目標に関連する内容をマークで示している。
- SDGsと美術の関わりについて具体的に示す特設ページを設けている。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがされたウェブコンテンツ等の示し方

- 各題材において、題材名の横に二次元コードを示している。
- 特設ページに、二次元コードを示している。
- 「体感ミュージアム」で、二次元コードからアクセスできる複数のコンテンツを示している。
 - ・ 音声ナビ「風神雷神図屏風（俵屋宗達）」
 - ・ 書き込みツール&高精細図画
 - ・ 解説動画「風神・雷神像」
 - ・ 鑑賞を広げる言葉集

1 知識及び技能の習得

視点① 造形的な視点を豊かにするための工夫

- 吹き出しに「造形的な視点」を示している。
「光に着目し、色彩の変化や美しさをとらえ、効果を考えよう。」
- 生徒作品の「作者の言葉」に表現意図とともに示している。
「先ほどまでの喧騒がうそのように静かになった放課後の風景を描きました。片付けられた掃除道具と強い西日が差し込む玄関ホールの光と影を表現するため色調や濃淡の違いを工夫しました。」

視点② 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着に向けた工夫

- 形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法に関する内容を巻末資料で掲載している。

【美術1】

「火焰型土器」	「発想・構想の手立て①」	「発想・構想の手立て②」
「どんなふうに描きたい？」	「さまざまな技法で描く」	「木版画」
「水墨画の表現」	「文字の基本」	「木でつくる」
「粘土でつくる」	「色彩の基本・仕組み」	「美術館へ行こう」

【美術2・3上】

「岡本太郎“芸術はみんなのもの”」	「暮らしに息づくパブリックアート」	「立体を描く」
「遠近感を表す」	「人物をつくる」	「北斎の大波」
「金属でつくる」	「日本美術と世界の美術の歩み」	「日本の伝統色」
「色彩の特徴を深く知る」		
「写真で表現する」		

【美術2・3下】

「さまざまなアートに触れよう」	「動画で表現する」	「絵巻物の世界」
「仏像の種類」	「美術文化の継承」	「日本の世界文化遺産」
「受け継ぐ伝統と文化」	「世界の工芸品と色彩」	

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 豊かに発想し構想を練るための工夫

- 発想・構想のポイントを示す特設ページを設けている。
- [鑑賞の入り口] を示し、表現と鑑賞の活動が相互に関連した学習の流れを示している。
[鑑賞の入り口] 印象に残るポスターや装丁には、どんな工夫があるだろうか
- [表現のヒント] のコーナーを設け、発想・構想の手立てや技能面の補足を示している。

【表現のヒント】

① テーマを掘り下げよう

テーマについてインターネットや書籍で情報を集め、問題点や伝えたいことの構想を深めよう。

- ☐ どこに焦点を当てるのか
- ☐ どんな結果になってほしいのか
- ☐ 何が原因なのか
- ☐ 自分には何ができるのか
- ☐ だれに伝えたいのか

② 表現方法を工夫しよう

テーマをだれにどのように伝えるか考え、構図やコピーを工夫しよう。例えば、「紹介する」「推奨する」「警告する」など伝え方にもさまざまある。写真やイラストで印象づけるほか、フォントの工夫によってもイメージを伝えることができる。

視点④ 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めるための工夫

- 巻頭に折り込み見開き3ページで、鑑賞活動のポイントを示している。
[美術の見方や考え方でとらえよう]
[習作と比べて考えよう]
[描き方に着目してみよう]
- 鑑賞活動の対象を1ページで示している。
[作品から]
[美術文化から]
[身近な生活から]
- 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載したり、作品の一部や全体を原寸大で掲載したりしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭で作家や生徒が日常の中の美しさを表現した写真作品を掲載している。
- 小学校の学びとのつながりと、表現と鑑賞を関連させた学習の流れについて示す特設ページを設けている。
- 教科書の使い方を示す特設ページを設けている。
- 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

- ページ数・版型

【美術1】 75ページ・A4ワイド版

【美術2・3上】 65ページ・A4ワイド版

【美術2・3下】 61ページ・A4ワイド版

- 題材数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数 合計
	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞	
【美術1】	7	3	6	2	18
【美術2・3上】	6	3	7	1	17
【美術2・3下】	5	4	5	1	15

- 学びの資料

【美術1】 19ページ

【美術2・3上】 15ページ

【美術2・3下】 12ページ

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 複数の題材で道徳科との関連について示し、その他の教科とつながりのある題材を設定している。
- 複数の題材で生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等を掲載している。
- デザインや工芸などのはじめに特設ページを設け、生活と美術の関わりを具体的に示している。
- 社会と美術の働きのつながりを示す特設ページを設けている。
- 複数の題材でSDGsの目標に関連する内容をマークで示している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがされたウェブコンテンツ等の示し方

- 各題材において、「学びのはじめに」に二次元コードを示している。
- 特設ページに、二次元コードを示している。
- 複数の題材で情報機器活用のヒントを示したICTマークを付している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「感性や想像力を働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に働かせながら育成すること」と「生活を美しくする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「みんなの工夫」のコーナーでは、生徒の制作における試行錯誤の過程を詳しく紹介することで、生徒が感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断しながら表現する活動を行うことができるようにしている。
- ・ 見開きや折り曲げの大型図版や原寸大で作品掲載を行い、【美術2・3】「日本の絵画を楽しむ5つのキーワード」では、和紙のような風合いの用紙に作品掲載を行っており、より本物に近い感覚で作品を味わうことができ、感性や想像力を豊かに働かせて鑑賞の活動を行い、美術文化について実感的な理解を深めることができるようにしている。
- ・ 【美術1】の巻末「美術鑑賞を楽しむ手がかり」のページで、鑑賞のポイントとともに、「美術鑑賞を広げる言葉」を示しており、生徒が言語活動を充実させながら、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断しながら鑑賞の活動を行うことができるようにしている。
- ・ 【美術1資料】において、形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法等に関して、3年間活用できる資料を別冊に掲載することで、生徒が自らの主題を表すために、感性や想像力を働かせて、思考・判断し、表現の活動を行うことができるようにしている。

意見2 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 「表現のヒント」のコーナーを設け、発想・構想の手立てや技能面の補足を示し、生徒が自らの主題を表すために、感性や想像力を働かせて、思考・判断し、表現の活動を行うことができるようにしている。
- ・ 見開きや折り曲げの大型図版や原寸大での作品掲載しており、本物に近い感覚で作品を味わい、感性や想像力を働かせて鑑賞の活動を行い、美術文化について実感的な理解を深めることができるようにしている。
- ・ 情報機器活用のヒントをICTマークで示し、情報機器を効果的に活用した活動を行うことができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔保健体育〕 種目〔保健体育〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [保健体育] 種目 [保健体育]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、各区にスポーツセンターが設置されているとともに、全国大会を開催することができる陸上競技場や体育館等の施設が充実しており、プロをはじめ、トップレベルのスポーツチームが数多くあることから、優れたプレーを間近に観戦できる地域である。また、近年は豪雨などの自然災害による深刻な被害も多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域でもある。
- 令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」によると、本市の生徒の実態は、運動することが好きな生徒や保健体育の授業が楽しいと感じている生徒が多い一方、体力合計点は全国平均値と比較すると、男女ともに下回っており、特に全身持久力に課題がある。また、1週間の総運動時間の減少といった運動習慣の課題や、スクリーンタイムや朝食欠食の増加といった生活習慣の課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫 ② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫

- 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の左上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。また、「章末資料」の「学習のまとめ」に「キーワードの解説」が確認できるよう、二次元コードを掲載している。
- 各章末の「学習のまとめ」に「章末問題」として知識・技能の習得を確認する問題を設け、二次元コードとともに掲載している。
- 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載しており、資料を読みとるためのポイントとして「ポイントマーク」を付している。また、「読み物」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。
- 各小単元の右下に学習内容に関する動画につながる二次元コードを掲載している。

視点② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫

- 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「リンクマーク」、「他教科マーク」を付している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫

- 各章末の「日常に生かそう」で、調べてみたいことや日常生活に生かしていきたいことを記述するためのワークシートを二次元コードで示している。また、巻末に「巻末スキルブック」を設け、健康・安全に関する20の技能を「スキル」としてまとめて掲載している。
- 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を6箇所掲載している。
- 小単元「自然災害による危険」、「自然災害による傷害の防止」、発展「共に生きる」、「巻末スキルブック」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報やハザードマップ、警戒レベル、防災の自助・共助・公助などを取り上げている。

【学習活動の例】

防災タイムラインを作成してみよう

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を6ページにわたり掲載している。
- 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、目次、小学校及び高等学校の関連する学習内容を示している。また、各章の学習内容に関係する発問を設定している。さらに、「保健体育の職業」として、その章に関係する仕事をしている方の紹介を二次元コードとともに掲載している。
- 小単元「食生活と健康」で、食事の健康への影響について示すとともに、小単元「調和のとれた生活」で、朝食の習慣と睡眠の関係について示している。また、章末資料「運動やスポーツと食事」で、運動やスポーツと食事の関係について示している。
- 小単元「休養・睡眠と健康」の「資料」で、ICT機器の使用と疲労について示すとともに、章末資料「インターネットと依存症」で、中学生のインターネット利用状況と依存する危険性について示している。

視点⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫

- 「運動やスポーツの多様性」の章末資料で、「私とスポーツ」としてスポーツと多様な関わりをしている方々の紹介や用具や技術の変化について掲載している。
- 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の章末資料「体力の要素」で、各体力要素を高める運動例を行う目安とともに掲載している。
- 巻末スキルブック「野外スポーツを安全に行う」で、野外スポーツを安全に行うための知識や対策の具体例をまとめて掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、保健編、体育編の順で配列している。
- サイズ AB判 重さ 約388g

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「章末資料」や「読み物」等で、「性の多様性」、「さまざまな自然災害の危険や防災」、「熱中症の予防と手当」など、発展的な内容を示している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「キーワード」、「ポイント」、「Dマーク」等、20種類のマークを付している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫

- 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の右下に示すとともに太文字で強調している。
- 各章末の「学習のまとめ」に学習内容を整理して示している。また、知識・技能の習得を確認する問題を設け、二次元コードとともに掲載している。
- 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載している。また、「トピックス」、「ミニ知識」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。

視点② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫

- 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「リンクマーク」、「他教科マーク」、「家マーク」、「地域マーク」を付している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫

- 各章末の「学びを活かそう」で、学習したことを日常生活で活用するための問いと記述欄を設けている。
- 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を4箇所掲載している。
- 小単元「自然災害による傷害の防止」、資料、章末資料「学びを活かそう」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、避難所のできることを考えようなどを取り上げている。

【学習活動の例】

日頃から備えておくことをチェックしてみよう

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を12ページにわたり掲載している。
- 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、小学校及び高等学校の関連する学習内容を示している。
- 小単元「食生活と健康」で、食事の健康への影響について示すとともに、章末「学びを活かそう」で、食生活の事例をもとに改善点を話し合う学習活動を設定している。
- 小単元「休養・睡眠と健康」、章末資料「睡眠と情報機器との関係」で、コンピューターやスマートフォンの使用による健康や睡眠への影響について示している。

視点⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫

- 「運動やスポーツの多様性」の章末資料で、運動やスポーツの移り変わりを紹介したり、オリンピック・パラリンピックへの関わり方について記述したりする欄を設けている。
- 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の章末資料で、体力の要素を中学校で学ぶ運動との関係で示すとともに、マイトレーニングをつくる学習活動を設定している。
- 小単元「安全な運動やスポーツの行い方」、章末「学びを活かそう」で、野外活動の危険性や安全な行い方について考える活動を設定している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、体育編、保健編の順で配列している。
- サイズ AB 変形判 重さ 約434g

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「トピックス」や「章末資料」等で、「気候変動への対策」、「熱中症の予防と応急手当」など、発展的な内容を示している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「資料」、「トピックス」、「WEB マーク」等、17種類のマークを付している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫

- 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の右上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。また、巻末で「用語解説」として用語の説明を示している。
- 各章末の「章のまとめ」に知識・技能の習得を確認する問題を設けている。
- 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載しており、資料を読みとるためのポイントとして「吹き出しマーク」を付している。また、「コラム」、「事例」、「ほり下げる」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。
- 各小単元の右下に学習内容の確認ができる「保体クイズにトライ!」という二次元コードを掲載している。

視点② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫

- 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「関連マーク」、「他教科マーク」を付している。また、保健と体育を関連させて考えることができるよう、体育の学習に「保健の窓」、保健の学習に「体育の窓」を掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫

- 各章末で習得した知識・技能を活用して考える「思考・判断・表現」の問題を設けている。
- 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を10箇所掲載している。
- 小単元「自然災害によるけがの防止」、特集資料「気象災害から命を守る行動」、「地震災害から命を守る行動」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、警戒レベル、命を守る行動などを取り上げている。

【学習活動の例】

インターネットを使って地域のハザードマップを実際に調べてみよう

- 小単元「災害と環境」で、災害による衛生環境の悪化や災害に関する情報の活用法などを掲載している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を8ページにわたり掲載している。
- 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、目次、小学校および高等学校の関連する学習内容を示している。また、各章の学習内容に関係する発問を設定している。
- 小単元「食事と健康」で、食事の健康への影響や朝食の重要性について示すとともに、特集資料「調和のとれた生活」で、自分の生活をチェックし、レーダーチャートを作成したうえで、良い点や改善点を整理し、それをもとにグループで話し合う学習活動を設定している。
- 小単元「休養・睡眠と健康」の「コラム」で、スマホと疲労について示すとともに、特集資料「見直そうスマホの習慣」で、自分のインターネットへの依存度をチェックする学習活動を設定している。また、インターネット依存について相談できるところを掲載している。

視点⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫

- 「運動やスポーツの多様性」の特集資料で、用具の進化についての紹介や、共生の視点からつくられた新しいスポーツの紹介を掲載している。
- 小単元「運動やスポーツの体と心への効果」の特集資料「体力を高めよう」で、体力の要素を体づくり運動との関係で示すとともに、体力向上のための計画を立てる学習活動を設定している。
- 「運動やスポーツの効果・学び方・安全」の特集資料「野外スポーツの危険と対策」で、野外スポーツにおける安全に関する知識と対策の具体例を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、体育編、保健編の順で配列している。
- サイズ AB判 重さ 約428g
- 広島に関する写真として、「体育授業の様子」、「バリアフリーの例」、「集中豪雨による土砂災害」を掲載している。

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「特集資料」や「コラム」等で、「性についての固定的な考えに気づこう」、「気象災害から命を守る行動」、「地震災害から命を守る行動」、「熱中症の予防と応急手当」など、発展的な内容を示している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「キーワード」、「ポイント」、「Dマーク」等、22種類のマークを付している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫

- 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の左上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。
- 各章末の「章のまとめ」に「確かめよう」として知識・技能の習得を確認する問題を設けている。
- 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載している。また、「コラム」、「情報サブリ」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。
- 各小単元の右下にワークシートにつながる「章デジ」という二次元コードを掲載している。

視点② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫

- 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「関連マーク」を付している。また、巻末で「キーワードで見る保健体育の学習内容」として、他の小単元や分野等との関連を整理して掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫

- 各章末で習得した知識を活用して考える「生かそう」を示すとともに、日常生活に生かしたいことを記述するための「生活への活用」を設けている。また、興味や関心などに応じて学習するための「もっと広げる深める」を4箇所設けている。
- 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を7箇所掲載している。
- 小単元「自然災害に備えて」、特設ページ「もっと広げる深める」、特設ページ「探究しようよ!」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、災害に関する情報の活用法、警戒レベル、タイムラインなどを取り上げている。

【学習活動の例】

災害に備える「タイムライン」を作ってみよう

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を8ページにわたり掲載している。
- 各章扉で、学習内容、小学校及び高等学校の関連する学習内容を示している。
- 小単元「食生活と健康」で、食事の健康への影響や朝食の重要性について示すとともに、小単元「調和のとれた生活」で、自分の生活をチェックし、良い点と改善点を整理する学習活動を設定している。
- 小単元「休養・睡眠と健康」の「コラム」で、スマートフォンと健康について示している。

視点⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫

- 「スポーツの多様性」の章末「探究しようよ!」で、スポーツの多様な関わり方の紹介や、共生の視点からつくられた新しいスポーツの紹介を掲載している。
- 巻末資料で体力の測定とその活用例を掲載している。
- 小単元「スポーツの安全な行い方」のコラム「野外スポーツの安全な行い方」で、野外スポーツのための自然に関する知識を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、体育編、保健編の順で配列している。
- サイズ AB判 重さ 約416g
- 広島に関する写真として、「広島市健康づくりセンター健康科学館」、「土砂災害ハザードマップ」、「ごみ処理施設」を掲載している。

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「探究しようよ!」や「コラム」等で、「性の多様性」、「災害に備えるタイムライン」、「気象災害への対処」、「熱中症を疑ったときの対応」など、発展的な内容を示している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「キーワード」、「ポイント」、「D マーク」等、16種類のマークを付している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市の実態や生徒の課題である「災害への知識と備えが必要な地域である」「体力低下や、1週間の総運動時間の減少といった運動習慣に課題がある」「スクリーンタイムや朝食欠食の増加といった生活習慣に課題がある」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 大修館書店の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 小单元「休養・睡眠と健康」の「コラム」で、スマホと疲労について示している。また、特集資料「見直そうスマホの習慣」で、インターネットへの依存度をチェックする内容があり、自分の生活習慣を見直すきっかけとなる学習活動を設定している。さらに、インターネット依存について相談できるところを掲載している。
- ・ 特集資料「体力を高めよう」で、体力の要素を体づくり運動との関係で示している。また、今の自分の体力を調べ、ねらいを持って体力を向上させるための計画を立てる学習活動を具体例とともに示しており、体力向上や運動習慣の定着につなげる工夫がなされている。
- ・ 小单元「自然災害によるけがの防止」、特集資料「気象災害から命を守る行動」、「地震災害から命を守る行動」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、警戒レベル、命を守る行動などを取り上げている。また、インターネットを使って自分が住んでいる地域のハザードマップを実際に調べる学習活動を設定している。さらに、小单元「災害と環境」で、災害による衛生環境の悪化や災害に関する情報の活用法などを掲載している。
- ・ 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を10箇所掲載している。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 小单元「休養・睡眠と健康」の「資料」で、ICT機器の使用と疲労について示している。また、章末資料「インターネットと依存症」で、自分の生活習慣を振り返るきっかけとして、中学生のインターネット利用状況と依存する危険性について示している。
- ・ 章末資料「体力の要素」で、各体力要素を高める運動について、すぐに自分の生活に取り入れることができるよう具体的な運動例と、その運動を行う目安を掲載している。
- ・ 小单元「自然災害による危険」、「自然災害による傷害の防止」、発展「共に生きる」、「巻末スキルブック」で自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報やハザードマップ、警戒レベル、防災の自助・共助・公助などを取り上げている。また、章末資料で防災タイムラインの作成例を示している。
- ・ 「巻末スキルブック」で「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を含め、健康・安全に関する20の技能を「スキル」としてまとめて掲載している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔技術・家庭〕 種目〔技術分野〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [技術・家庭] 種目 [技術分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、鉄道や都市高速道路などの交通網が発達し、大型商業施設が誘致され、自動車産業や重工業に関連した工場とオフィスが多く立地する中国地方の経済・産業の拠点となっている地域である。
- 生徒は、都市型の生活環境にあつて、センシング技術や高速通信技術など世の中の最新技術に触れる機会が多いため、技術分野の学習への関心が高い。その一方で、生活をしていて困ることや不便だと感じるものが少なく、自らの手で加工する経験なども不足している。それにより、生活の中にある問題を見い出して課題を設定することやその課題を自分の手で解決する経験が乏しいため、課題を設定した上で解決策を構想し、具体化した実践を評価・改善するなどの問題解決学習を行う力にも課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 生活や社会の中から問題を見いだし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫 ③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 学習目標や振り返りの示し方の工夫 ⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って自らの学びにつなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容 ⑦ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑧ 他教科や日常生活、社会との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

東京書籍

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫

- 基礎的・基本的な技能について、工程ごとに示すとともに、内容A「材料と加工の技術」においては、工具や機械を適切に取扱う技能について、12 ページにわたって掲載している。
- 学習の参考となる資料や解説を、「資料」マークを付して掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習方法」において示し、説明している。
- 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「統合的な問題解決をしよう!」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 「考えてみよう」、「調べてみよう」、「やってみよう」、「話し合ってみよう」のマークを付し、言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動を設定している。
- 巻頭で思考ツールについて説明し、生徒が意見やアイデアを出したりまとめたりするときに取り入れることができるようにしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習目標や振り返りの示し方の工夫

- 学習の目標を「目標」で示すとともに、「まとめよう」、「振り返ろう」、「深めよう」で学習の振り返りを行えるようにしている。
- 各学習内容とも「学習のまとめ」の項目で学習を振り返る内容を設定している。

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って自らの学びにつなげたりするための工夫

- 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、「技術の天秤」マークを付して、技術の最適化について具体的な事例を示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 実践的・体験的な学習について、問題解決例として挙げている。
 - ・ 問題解決例の数：17 事例

内容「A材料と加工の技術」：3 事例	内容「B生物育成の技術」：3 事例
内容「Cエネルギー変換の技術」：3 事例	内容「D情報の技術」：6 事例
 - ・ 統合的な問題解決：2 事例
 - ・ 掲載例：『あつたらしいな』を形にしよう

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- 各学習過程の分量（ページ数）
 - ・ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 96 ページ
 - ・ 「技術による問題解決」に関する分量 96 ページ
 - ・ 「社会の発展と技術」に関する分量 24 ページ

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活、社会との関連の示し方

- 小学校で学習した内容や、中学校の他教科で学習する内容との関連については、その記載があるページに、「リンク」マークを付すとともに、教科、内容等を示している。
- 技術分野のガイダンスに、日常生活における身近な物を写真で示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- キャラクターや吹き出しを使い、学習を進める際のポイントやヒントを示している。
- それぞれのページの右上に掲載している二次元コードを読み取ることで、「Dマーク」を示した各項目の学習内容と関連する動画や資料などが掲載されたウェブコンテンツの目次ページにアクセスできる。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫

- 基礎的・基本的な技能について、工程ごとに示すとともに、内容A「材料と加工の技術」においては、工具や機械を適切に取扱う技能について、別冊「スキルアシスト」に12ページにわたって掲載している。
- 学習の参考となる資料や解説を、「もっと知ろう」マークを付して掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 社会や生活での問題解決の流れの例を、巻頭「技術の問題解決ってなに？」において示し、説明している。
- 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「E編『夢をかなえる技術』」を設けている。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 「考えてみよう」、「やってみよう」のマークを付して、言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習目標や振り返りの示し方の工夫

- 学習の目標を「めあて」で示すとともに、「ふり返る」で学習を振り返るチェック欄を設けている。
- 各学習内容とも「編のまとめ」の項目で学習を振り返る内容を設定している。

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って自らの学びにつなげたりするための工夫

- 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、技術の最適化について具体的な事例を示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 実践的・体験的な学習について、問題解決例・題材例として挙げている。
 - 問題解決例・題材例の数：21 事例
 - 内容「A材料と加工の技術」：4 事例 内容「B生物育成の技術」：6 事例
 - 内容「Cエネルギー変換の技術」：6 事例 内容「D情報の技術」：5 事例
 - 掲載例：「調味料ホルダー」

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- 各学習過程の分量（ページ数）
 - 「生活や社会を支える技術」に関する分量 70 ページ
 - 「技術による問題解決」に関する分量 176 ページ
（うち、別冊スキルアシスト 38 ページ）
 - 「社会の発展と技術」に関する分量 12 ページ

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活、社会との関連の示し方

- 小学校で学習した内容や、中学校の他教科で学習する内容との関連については、その記載があるページに、「関連」マークを付すとともに、教科を示している。
- 技術分野のガイダンスに、日常生活における身近な物を写真で示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- キャラクターや吹き出しを使い、学習を進める際のポイントやヒントを示している。
- 各学習内容の題材例や、技術ハンドブックの基礎技能のページの右上に掲載している二次元コードを読み取ることで、その各内容と関連する動画や画像などがまとめられたウェブコンテンツにアクセスできる。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫

- 基礎的・基本的な技能について、工程ごとに示すとともに、内容A「材料と加工の技術」においては、工具や機械を適切に取扱う技能について、22ページにわたって掲載している。
- 学習の参考となる資料や解説を、「参考」マークを付して掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習の流れ」において示し、各要素について4コマ漫画を使って説明するとともに、学習の流れのイメージ図を掲載している。
- 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「技術分野の出口」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。また、「技術分野での問題解決をふり返ろう」を掲載し、3年間で学習した内容を踏まえて統合的な問題解決に取り組むことができるようにしている。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 「調べてみよう」、「やってみよう」のマークを付して、言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動を設定している。
- 巻頭で「マインドマッピング」、「ブレインストーミング」、「KJ法」について説明し、生徒が意見やアイディアを出したりまとめたりするときに取り入れることができるようにしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習目標や振り返りの示し方の工夫

- 学習の目標を「学習の目標」で示すとともに、「CHECK」で学習を振り返るチェック欄を設けている。
- 各学習内容とも「学習のまとめ」の項目で学習を振り返る内容を設定している。

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って自らの学びにつなげたりするための工夫

- 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、「トレードオフ」マークを付して、技術の最適化について具体的な事例を示している。
- 学習を振り返って自らの学びにつなげることができるように、「問題解決のふり返りシート」をAからDの各学習内容に計4箇所掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 実践的・体験的な学習について、題材例として挙げている。
 - ・ 題材例の数：35 事例
 - 内容「A材料と加工の技術」：7 事例 内容「B生物育成の技術」：8 事例
 - 内容「Cエネルギー変換の技術」：4 事例 内容「D情報の技術」：13 事例
 - 統合的な題材：3 事例
 - ・ 掲載例：「小さなスペースで机の上を整理・整頓できるマルチラック」

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- 各学習過程の分量（ページ数）
 - ・ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 104 ページ
 - ・ 「技術による問題解決」に関する分量 116 ページ
 - ・ 「社会の発展と技術」に関する分量 16 ページ

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活、社会との関連の示し方

- 小学校で学習した内容や、中学校の他教科で学習する内容との関連については、その記載があるページに、「小学校」マークや「他教科」マークを付すとともに、教科、内容等を示している。
- 技術分野のガイダンスに、日常生活における身近な物を写真で示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- キャラクターや吹き出しを使い、学習を進める際のポイントやヒントを示している。
- それぞれのページの右上に掲載している二次元コードを読み取ることで、各項目の学習内容と関連する動画や資料などが掲載されたウェブコンテンツに直接アクセスできる。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の「世の中の最新技術に触れる機会が多いため、技術分野の学習への関心が高いが、生活をしていて困ることや不便だと感じるものが少ない」、「課題を設定した上で解決策を構想し、具体化した実践を評価・改善するなどの問題解決学習を行う力に課題がある」という状況に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習の流れ」において示し、各要素について4コマ漫画を使って説明するとともに、学習の流れのイメージ図を掲載している。
- ・ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「技術分野の出口」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。また、「技術分野での問題解決をふり返ろう」を掲載し、3年間で学習した内容を踏まえて統合的な問題解決に取り組むことができるようにしている。
- ・ 学習を振り返って自らの学びにつなげることができるように、「問題解決のふり返りシート」をAからDの各学習内容に計4箇所掲載している。
- ・ 実践的・体験的な問題解決学習の具体例の名称について、「小さなスペースで机の上を整理・整頓できるマルチラック」など、何を目的としたものかが具体的にわかるようになっている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習方法」において示し、説明している。
- ・ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「統合的な問題解決をしよう！」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。
- ・ 実践的・体験的な問題解決学習の具体例の名称について、「『あったらいいな』を形にしよう」など、問題解決のテーマを示している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔技術・家庭〕 種目〔家庭分野〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [技術・家庭] 種目 [家庭分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市街地などの地域では大型商業施設やコンビニエンスストアが多くある一方、中山間地などの郊外ではスーパーマーケットも近くにないなど、保護者や生徒の生活様式が地域により大きく異なっている。また、自然災害が多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域であるが、過去の災害の経験の有無等によって生徒の意識には差がある。
- 広島市中学校教育研究会技術・家庭科部会が実施したアンケートによると、本市の生徒の約8割は、家庭科の授業内容は実際の生活や社会と関連していると感じているが、家庭や地域社会に家庭科で習ったことをいかして解決したり、改善したりすることができる問題があると感じている生徒は6割程度である。また、それらの問題を解決するために計画を立てて実践することがある生徒は3割程度となっている。このことから、生活の中から問題を見いだして解決する力や、生活を工夫し創造しようとする態度の育成が必要である。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 生活の自立に必要な知識及び技能の定着を図る工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫 ③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための示し方 ⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容 ⑦ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑧ 技術分野や他教科、小学校の学習内容との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 生活の自立に必要な知識及び技能の定着を図る工夫

- 編末の「学習のまとめ」では、重要語句の一覧と知識・技能に関わる問いを設けている。
- 「いつも確かめよう」として、食生活および衣生活の基礎技能をまとめて掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 巻頭の Warm up の「家庭分野の学習の進め方」で、2ページにわたり、「よりよい生活をつくる－問題を解決する道筋－」として、問題解決的な学習の流れを掲載している。
- 巻末の「選択 生活の課題と実践」で、11ページにわたり、学習の進め方および実践例とそのまとめ方の例を掲載している。

【「生活の課題と実践」の例：6例】

・ A 家族・家庭生活 2例 ・ B 衣食住の生活 3例 ・ C 消費生活・環境 1例

- 編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いを設けている。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 各節のはじめに導入課題を示し、生活を振り返るきっかけを設定している。
- 巻頭の Warm up の「家庭分野の学習の進め方」で、物事を考えたり、意見を整理したりするときに活用する手順や図式である思考ツールを7つ掲載している。
- 「考えてみよう」や「話し合ってみよう」のマークを付し、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を23例設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための示し方

- 1編のガイダンスにおいて、2ページにわたり、生活の営みに係る見方・考え方を「家庭分野の見方・考え方」として説明し、具体例、対応するマークを写真・イラストと共に示している。
- ・ 「協力・協働」 ・ 「健康・快適・安全」 ・ 「生活文化の継承・創造」 ・ 「持続可能な社会の構築」

- 各編の最後に、それぞれの学習内容と持続可能な社会の構築を関連付けた章を設けている。

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 編末の「学習のまとめ」では、主体的に学習に取り組む態度に関連した問いとして、学習を振り返ってまとめ、興味・関心をもったことを記述する問いを設けている。
- 各編の最初の見開きには、キャラクターのふきだして、「あなたが知りたいこと、できるようになりたいことは何かな。」として、知りたい項目のチェック欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 幼児と触れ合う活動に関する実習例を3例、まとめ方の例を2例掲載している。また、2ページにわたり、幼児の起床から就寝までの生活の様子について、家庭と施設での生活に分けて写真を掲載している。
- 幼児の生活と家族および食生活の学習において、調理実習例を51例掲載している。
- 調理手順の中に「ポイント」として、調理のポイントを解説している。
- 布を用いた製作について、実習例を14例掲載している。

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- ガイダンス (A 家族・家庭生活) → B 食生活・衣生活・住生活 → C 消費生活・環境 → A 家族・家庭生活 → 生活の課題と実践 の順で配列している。
- 災害に備えることを目的とする内容には「防災」マークを付し、A 家族・家庭生活、B 衣生活・住生活、巻末において合計12ページで掲載している。
- 「災害に備える」として、2ページにわたり、防災に関する特集を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 技術分野や他教科、小学校の学習内容との関連の示し方

- 1編のガイダンスにおいて、学習内容ごとに小学校と中学校での関連を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 食品群別摂取量のめやすの例を実物大の写真とともに38例示している。また、それらを使用した1日分の食事の例と配膳図を写真で示している。
- 学習に関連する動画やシュミレーションなどのウェブコンテンツが「D マーク」で示され、二次元コードが右ページ上部に示されている。それを読みとることで、学習内容と関連する動画や資料などがまとめられたウェブコンテンツにアクセスすることができる。

1 知識及び技能の習得

視点① 生活の自立に必要な知識及び技能の定着を図る工夫

- 章末または編末の「学習のふり返り」では、知識・技能に関わる問いを設けている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 巻頭のガイダンスで、2ページにわたり、「自分の課題をもって学習に取り組もう！～家庭分野の課題解決の進め方～」として、問題解決的な学習の流れと取り組み方の例を紹介したページの一覧を掲載している。

- 巻末の「選択 生活の課題と実践」で、10ページにわたり、学習の流れ、ポイントおよび実践例を掲載している。

【「生活の課題と実践」の例：8例】

- ・ A 家族・家庭生活 2例 ・ B 衣食住の生活 4例 ・ C 消費生活・環境 2例

- 章末または編末の「学習のふり返り」では、思考・判断・表現に関わる問いを設けている。

- 章末に「学びを生かそう」を設け、課題設定のヒントや課題例、取り組み方の流れ、まとめ方の例を掲載している。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 各節のはじめに導入課題を示し、生活を振り返るきっかけを設定している。

- 「考えてみよう」、「発表してみよう」、「話し合ってみよう」のマークを付し、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を42例設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための示し方

- 巻頭のガイダンスにおいて、2ページにわたり、生活の営みに係る見方・考え方を「つなぐ、つながる」をキーワードに写真・イラストと共に整理して示している。

・「協力・協働」 ・「健康・快適・安全」 ・「生活文化の継承・創造」 ・「持続可能な社会の構築」

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 章末または編末の「学習のふり返り」では、主体的に学習に取り組む態度に関連した問いとして、学習を振り返ってまとめ、興味・関心をもったことを記述する問いを設けている。

- 各編の最初の見開きには、自分の普段の家庭生活について振り返る「自立度チェック」を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 幼児と触れ合う活動に関する実践例を3例、まとめ方の例を2例掲載している。

- 幼児の生活と家族および食生活の学習において、調理実習例を53例掲載している。

- 調理手順の中に「Q」と「A」として、調理のポイントを解説し、「どうしてこうなったのかな？」として失敗した調理例の写真をもとにポイントを確認する場面を設けている。

- 災害時の食生活について、ポリ袋を使用したご飯の炊き方を掲載している。

- 布を用いた製作について、実習例を9例掲載している。

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- ガイダンス → A 家族・家庭生活 → B 食生活・衣生活・住生活 → C 消費生活・環境 → 生活の課題と実践 の順で配列している。

- 災害に備えることを目的とする内容には「防災」マークを付し、B 食生活・衣生活・住生活において合計9ページで掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 技術分野や他教科、小学校の学習内容との関連の示し方

- 巻頭のガイダンスにおいて、学習内容ごとに小学校と中学校での関連を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 食品群別摂取量のめやすの例を実物大の写真とともに36例示している。また、それらを使用した1日分の食事の例と配膳図を写真で示している。

- 学習に関連する動画やホームページを参照できる二次元コードが、ページ下部に示されている。それを読み取ることで、学習内容と関連する動画や資料などがまとめられたウェブコンテンツにアクセスすることができる。

1 知識及び技能の習得

視点① 生活の自立に必要な知識及び技能の定着を図る工夫

- 編末の「学習のまとめ」では、知識・技能に関わる問いを設けている。
- 「調理の基礎」、「製作の基礎・基本を知ろう」として、食生活および衣生活の基礎技能をまとめて掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 巻頭のガイダンスで、2ページにわたり、「生活課題に取り組む」として、課題の見つけ方や取り組み方および目標達成シートの例を掲載している。
- 巻末の「生活の課題と実践」で、12ページにわたり、課題設定の記述欄、学習の進め方、取り組み方の例、実践例とまとめ方の例を掲載している。

【「生活の課題と実践」の例：10例】

- ・ A 家族・家庭生活 3例 ・ B 衣食住の生活 6例 ・ C 消費生活・環境 1例
- 編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いを設けている。また、生活の課題と実践につながる問いを設け、イラストや写真、ふきだしの文言を用いて課題設定につながる問いかけをしている。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 各節のはじめに導入課題を示し、生活を振り返るきっかけを設定している。
- 「考えてみよう」、「工夫してみよう」、「発表してみよう」、「話し合ってみよう」のマークを付し、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を34例設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための示し方

- 巻頭のガイダンスにおいて、生活の営みに係る見方・考え方を「生活の見方・考え方の視点」として示している。
・ 「協力・協働」 ・ 「安全・快適・健康」 ・ 「生活文化」 ・ 「持続可能な社会の構築」
- 各編の最後に、それぞれの学習内容と持続可能な社会の構築を関連付けた章を設けている。また、関わりの深いSDGsの目標をマークと共に示している。

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 編末の「学習のまとめ」では、主体的に学習に取り組む態度に関連した問いとして、イラストや写真、図から具体的な場面を想定して考える問いを設けている。
- 各編の最初の見開きには、「自分の興味・関心を大切に」を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 幼児と触れ合う活動に関する実践例を5例、まとめ方の例を2例掲載している。また、2ページにわたり、幼稚園の鳥瞰図（イラスト）を幼稚園での幼児の生活の様子がわかる写真と共に掲載している。
- 食生活の学習において、調理実習例を51例掲載している。
- 調理手順中に複数の「Q」を示し、調理手順の下部に「調理方法 Q&A」としてまとめ、「なぜ～？」と考えさせる示し方で調理のポイントを解説している。
- 災害時の食生活について、ポリ袋を使用したカレーうどんの作り方を掲載している。
- 布を用いた製作について、実習例を11例掲載している。

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- ガイダンス → A 家族・家庭生活 → B 食生活・衣生活・住生活 → C 消費生活・環境 → 生活の課題と実践 の順で配列している。
- 災害に備えることを目的とする内容には「防災」マークを付し、B 食生活・衣生活・住生活、巻末において合計14ページで掲載している。
- 「わたしたちの防災～防災があたりまえの生活に～」として、8ページにわたり、防災に関する特集を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 技術分野や他教科、小学校の学習内容との関連の示し方

- 巻頭のガイダンスにおいて、中学校の学習内容を空間軸からとらえ、小学校と同様に3つの分野であると示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 食品群別摂取量のめやすの例を実物大の写真とともに45例示している。また、それらを使用した1日分の食事の例と配膳図を写真で示している。
- 学習内容を補足する資料や動画が参照できる内容には「QR」マークが付しており、二次元コードが右ページ上部に示されており、それを読みとることで、「QR」マークに対応した内容に関する動画や資料などが掲載されたウェブコンテンツに直接アクセスすることができる。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市の実態である「自然災害が多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域であること」や、本市生徒の課題である「生活の中から問題を見いだして解決する力や、生活を工夫し創造しようとする態度の育成」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 巻頭のガイダンスで、2ページにわたり、「生活課題に取り組む」として、生活課題の見つけ方を最初に掲載し、取り組み方および目標達成シートの例を掲載している。また、巻末の「生活の課題と実践」で、12ページにわたり、課題設定の記述欄、学習の進め方、取り組み方の例、実践例を10例とまとめ方の例を掲載している。さらに、実践例は調査や実習だけでなく、実験を中心とした取組例も含まれている。
- ・ 調理手順中に複数の「Q」を示し、調理手順の下部に「調理方法 Q&A」としてまとめ、「なぜ～？」と考えさせる示し方で調理のポイントを解説している。
- ・ 「わたしたちの防災～防災があたりまえの生活に～」として、8ページにわたり、防災に関する特集としてハザードマップなどを掲載しており、災害時の備えについて具体的に考えることができるようになっている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 巻頭の Warm up の「家庭分野の学習の進め方」で、2ページにわたり、「よりよい生活をつくる-問題を解決する道筋-」として、問題解決的な学習の流れを掲載している。また、巻末の「選択 生活の課題と実践」で、11ページにわたり、学習の進め方および実践例を6例とそのまとめ方の例を掲載している。
- ・ 調理手順の中に「ポイント」として、調理のポイントを解説している。
- ・ 「災害に備える」として、2ページにわたり、防災に関する特集を掲載しており、災害時の備えについて考えることができるようになっている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔外国語〕 種目〔英語〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [外国語科] 種目 [英語]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、国際平和文化都市であり、外国から多くの人々が平和記念公園や原爆ドーム等を訪れる地域である。令和3年度に改定した広島市教育大綱に示す「自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材の育成」を目指し、英語授業の充実、英語を使う場の多様化、学習支援の3つの柱において実践研究を進めるとともに、全中学校区に設置している小・中連携教育研究会の「英語研究チーム」において、円滑な接続ができるよう協議等を行いながら、小・中7年間を通して児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図っている。
- 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果から、本市の生徒の実態として、「読むこと」については、短い文章の中で、情報を正確に読み取ることは定着している一方、「聞くこと」については、文における基本的なイントネーションや区切りなどの音声の特徴を踏まえて、情報を正確に聞き取ることに課題がある。また、「話すこと」及び「書くこと」については、自分の考えとその理由などを適切に表現している生徒の割合が低く、語順の誤りなど、正確に表現することにも課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫 ② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫 ④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、第1学年ではアクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 英語の語順について、「Grammar for Communication」に、文の構成要素を色と形で分けて示している。また、巻末付録として「語順カード」を収録している。
- 基本文のまとめは、各学年の資料編の「Key Sentences」に英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Real Life English」で、各学年1～3回設定するとともに、第1学年では、「Sounds and Letters」を5回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「カナダのバンクーバーの生徒に日本の郷土や文化になどについて説明する」や「日本にホームステイに来る留学生に日本の習慣やマナーの紹介しよう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「目的・場面・状況」：国際交流の授業で、カナダのバンクーバーの生徒から、ビデオレターが届きました。相手が知りたい情報を確認しましょう。
- ・ また、デジタルコンテンツの「ビデオレター」にアクセスできる二次元コードを付している。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年に設定されている「Stage Activity」で、情報を整理し考えを形成するための「マッピング」やキーワードをまとめる表を示している。また、デジタルコンテンツの「思考ツール」にアクセスできる二次元コードを付している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標を「GOAL」に「～することができる」の形で、単元の最後の活動である「Unit Activity」を「～しよう」の形で各単元の扉にそれぞれ日本語で並べて示している。また、単元の終末に、目標に対応した「CHECK」を設定し、4段階で達成度を確認できるようになっている。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「GOAL」：過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。
- ・ 「Unit Activity」：「冬休みの出来事を伝え合おう」

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第1学年の資料編に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを12例示している。
- 第3学年のLet's read 1「A mother's lullaby」で、原爆やオバマ大統領の広島訪問について扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の「Unit 0～4」に、小学校で習った表現について、「聞く・読む・話す（やり取り）・書く」活動を扱っている。
- 第2・3学年の巻頭「Unit 0」に、前学年の復習ページを設定している。また、「NEW HORIZON 用例辞典」にアクセスできる二次元コードを付している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「世界遺産の価値」等を題材として扱うとともに、特設ページの「Learning ... in English」に、「世界に広がる日本語」や「食物連鎖」等を関連する教科名を付して題材として扱っている。また、第3学年の資料編の「Unit Activity Plus」に「エシカルな商品をPRしよう」等を掲載している。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「国際支援・水問題」や「SDGsの目標について」などを扱うとともに、第3学年の表見返しに、SDGsのロゴマークを付している。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごと等に、「語句クイズ」、各単元の「Preview アニメ」、「学び方コーナー（解説動画）」等のデジタルコンテンツへアクセスできる二次元コードを付している。
- 「資料編」として、「Word List」等、各学年7～10の資料を掲載している。また、「付録」として、表現活動の参考となる「語順カード」や「Small Talk 即興で伝え合おう」を収録している。

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、全学年ともアクセントとともに示している。
- 英語の語順について、「Get Ready」に、文の構成要素を色で分けて示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Power-Up」で、各学年2～4回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「パラスポーツについて知ろう」や「飛行機のアナウンスを聞こう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ (扉)：パラスポーツについて知ろう

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「Our Project」で、情報を整理し考えを形成するための「マッピング」やキーワードをまとめる表や図を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標を「Goals」に、単元の最後の活動である「Action」に、「～する」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、「Action」に対応した「できたかな? GOAL」を設定し、3段階で達成度を確認できるようになっている。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「Scenes」：過去にしたことを伝える。
- ・ 「Part 1,2,3」、「Review & Retell」：美樹のフィンランド旅行の様子を理解し、伝える。
- ・ 「Action」：自分がしたことを伝える。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第2学年のPROGRAM 8「A Hope for Lasting Peace」で、原爆の子の像や佐々木禎子さんについて扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の巻頭「Get Ready」に、小学校で習った表現について「聞く・読む・話す（やり取り）・書く」活動を扱っている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「ユニークな動物」等を題材として扱うとともに、特設ページの「Coffee Break」に、「色を使った英語表現」や「世界自然遺産」等を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「レストランにSDGsの取り組みを提案しよう」や「Malala's Voice for the Future」などを扱うとともに、目次や各単元の扉に、SDGsのロゴマークを付している。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごとに、音声などへアクセスできる二次元コードを付している。
- 「巻末資料」として、「単語と熟語」等、各学年6～12の資料を掲載している。その中で、表現活動の参考となる「Word Web」や「Small Talk 表現集」を収録している。

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、第1学年ではアクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 英語の語順について、「Language Focus 1」に示している。
- 基本文のまとめは、各学年の資料の「基本文のまとめ」に英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Take Action!」で、各学年5回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「アメリカに住んでいるマークの友達におすすめの旅行プランを提案しよう」や「海外からあなたの町へ来る旅行者向けに、町や地域の魅力を伝える動画を作ろう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「Setting」：アメリカに住んでいるマークの友だちが、初めて日本に来ることになりました。マークの友だちのプロフィールを読み、おすすめの旅行プランを考えて、それぞれに提案しよう。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「Project」で、情報を整理し考えを形成するためのキーワードをまとめる表や図などを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の最後の活動を「Goal Activity」に「～しよう」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、「ふり回り」を設定している。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「Goal Activity」：写真を描写し、詳しい説明を付け加えて、日本の学校生活や行事を紹介するメールを書こう。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第1学年の資料に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを35例示している。
- 第3学年のLesson 3「Cranes for Peace」で、原爆ドーム、原爆の子の像や佐々木禎子さんについて扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の巻頭「Starter」に、小学校で習った表現について「聞く・話す（やり取り）・書く」活動を扱っている。
- 第2・3学年の巻頭「Lesson 1」に、前学年の復習ページを設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「デザイン力」等を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「安全できれいな水」や「平等ってなに？」などを扱っている。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元のパートごとに、「発音チェックをしよう」や「文法解説動画で確認しよう」等の音声や動画へアクセスできる二次元コードを付している。
- 「資料」として、「単語の意味」等、各学年13～14の資料を掲載している。その中で、表現活動の参考となる「いろいろな単語」や「Tips for Small Talk」を収録している。

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 英語の語順について、「Grammar」に、文の構成要素を色で分けて示している。
- 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「重要構文復習リスト」に、英語と日本語で示している。また、第2・3学年は、それぞれ前学年までの基本文も英語と日本語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Tips for Listening」で、各学年2～3回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「魅力的な商品やサービスを考え、表現する」や「オリジナルの標識を考えて、その特徴や意味を表現する」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「Scene」：生活を便利にするために、どんな商品やサービスがあったら良いかを考え、コマースの形で発表することになりました。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「Project」で、情報を整理し考えを形成するための「Xチャート」やキーワードをまとめる表など、様々な思考ツールを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標を「内容理解」と「活動」に分けて示している。「内容理解」は「～を理解する」の形で、「活動」は「～することができる」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、各目標に対応した「ふり返ろう」を設定し、4段階で達成度を自己評価できるようになっている。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「内容理解」：生徒たちが週末にしたことを理解する。
- ・ 「活動」：過去を表す形を使って表現することができる。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第1学年の巻頭に、授業中の指示や生徒が使える表現として、クラスルームイングリッシュを20例示している。
- 第3学年のReading 2「My Prayer for Peace」で、広島に住んでいる中学生のスピーチとして、平和について扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の巻頭「Spring Board」に、小学校で習った表現について「聞く・書く」活動を扱っている。
- 第2・3学年の「Review Lesson Part」に、前学年の復習ページを設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「太陽光エネルギー等の再生可能エネルギー」や「宇宙旅行」等を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「SDGsやリサイクルについて」や「ユニバーサルデザイン」などを扱うとともに、各学年の目次に、SDGsのロゴマークを付している。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごとに、「学びリンク（ウェブサイト）」として、学習の参考となる音声や動画などの資料へアクセスできる二次元コードを付している。
- 「巻末資料」として、「Word List」等、各学年8～9の資料が掲載されている。その中で、表現活動の参考となる「Think & Try 活動例」や「分野別用語集」を収録している。

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 英語の語順について、巻末付録の「英語のしくみ」に、文の構成要素を色と形で分けて示している。
- 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「基本文のまとめ」に、英語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、第1学年では「Sounds and Letters」で、第2・3学年では「Daily Life」で、各学年2～3回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「学校生活について意見をまとめよう」や「誰もが楽しめるイベントを提案しよう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「目的・場面・状況」：あなたは、海外の中学生たちと「学校生活」をテーマに意見交換をすることになりました。意見交換会に向けて、各国の中学生がウェブサイトで様々な意見を発表しています。グループで取り上げる問題を決めて話し合い、クラスの意見をまとめましょう。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「You Can Do It!」で、情報を整理し考えを形成するためのキーワードをまとめる表などを示している。また、各学年の裏見返しに「思考の地図」を掲載し、様々な思考ツールを掲載している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標とそれに関わる技能を「～することができる」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、目標に対応した「ふり返り」を設定している。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「Read」：出来事を伝えるはがきを読み、おおまかな内容を捉えることができる。
- ・ 「Write」：出来事や気持ちが伝わるように、はがきを書くことができる。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第3学年のUnit 3「Lessons From Hiroshima」で、ピースボランティアについて扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の巻頭「Let's Be Friends」に、小学校で習った表現について「聞く・話す（やり取り）・話す（発表）・書く」活動を扱っている。
- 第2・3学年の「Play Back the Story」に、前学年の復習ページを設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「バーチャル・サファリ・ツアー」等を題材として扱うとともに、特設ページの「World Tour」に、「世界の中学生」や「世界のワンダーについて知ろう」等を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「盲導犬」や「持続可能な社会に向けリポートしよう」などを扱っている。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごとに、学習に役立つ資料へアクセスできる二次元コードを付している。
- 「巻末付録」として、「Word List」等、各学年8～9の資料が収録している。その中で、表現活動の参考となる「Active Words」や「Let's Talk」を収録している。

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「基本文のまとめ」に、英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文を英語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Let's Listen」で、各学年3～4回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「ALTの先生にインタビューをして、記事にまとめる」や「日本の習慣やマナーを伝えよう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「Scene」: ALTのWhite先生にインタビューをして記事にまとめることになりました。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「Project」で、「Xチャート」や「マッピング」、キーワードをまとめる表などを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標を「INPUT」と「OUTPUT」に分けて、「～することができる」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、各目標に対応した「CHECK」を設定し、4段階で達成度を確認できるようになっている。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「Input」: 冬休みの思い出を聞いて、話の大まかな内容を捉えることができる。
- ・ 「Output」: 冬休みの思い出について、まとまりのある内容を話すことができる。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第1学年のUnit1の後に、授業中の指示として、クラスルームイングリッシュを、12例示している。
- 第3学年のUnit2「Passing Down Memories」で、被爆体験の語り部とその伝承者について扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の巻頭「Let's Start」に、小学校で習った表現について「聞く・書く」活動を扱っている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「世界遺産」や「気候変動への対策」を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「海洋プラスチックごみ」や「動物との共存」などを扱っている。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごとに、学習の参考になる音声や情報、資料へアクセスできる二次元コードを付している。
- 「巻末付録」として、「Word List」等、各学年7～9の資料が収録している。その中で、表現活動の参考となる「Word Box」を収録している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「文における基本的なイントネーションや区切りなどの音声の特徴を踏まえて、情報を正確に聞き取ること、自分の考えとその理由などを適切に表現すること、語順の誤りなく正確に表現すること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 英語の語順について、「Grammar for Communication」に、文の構成要素を色と形で分けて示している。また、巻末付録として、生徒自身が単語を並べて、英文を作ること、語順を意識することができるよう、「語順カード」を収録している。
- ・ 基本文のまとめは、各学年の資料編の「Key Sentences」に英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。
- ・ 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Real Life English」で、各学年1～3回設定するとともに、第1学年では、「Sounds and Letters」を5回設定している。
- ・ 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「カナダのバンクーバーの生徒に日本の郷土や文化になどについて説明する」や「日本にホームステイに来る留学生に日本の習慣やマナーの紹介しよう」等、様々なテーマを具体的に設定している。また、デジタルコンテンツの「ビデオレター」にアクセスできる二次元コードを付して、目的や場面、状況をより明確に示している。
- ・ 各学年に設定されている「Stage Activity」で、情報を整理し考えを形成するための「マッピング」やキーワードをまとめる表を示している。また、デジタルコンテンツの「思考ツール」にアクセスできる二次元コードを付している。

意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 英語の語順について、「Grammar」に、文の構成要素を色で分けて示している。
- ・ 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「重要構文復習リスト」に、英語と日本語で示している。また、第2・3学年は、それぞれ前学年までの基本文も英語と日本語で示している。
- ・ 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Tips for Listening」で、各学年2～3回設定している。
- ・ 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「魅力的な商品やサービスを考え、表現する」や「オリジナルの標識を考えて、その特徴や意味を表現する」等、様々なテーマを具体的に設定している。
- ・ 各学年で設定されている「Project」で、情報を整理し考えを形成するための「X チャート」やキーワードをまとめる表など、様々な思考ツールを示している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔特別の教科 道徳〕 種目〔道徳〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [特別の教科 道 徳] 種目 [道 徳]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、「国際平和文化都市」を都市像とし、被爆者の願いや世界恒久平和を願う市民の心を基底として、人間の尊厳や生命の尊さを自覚し、自他共に大切にし、正義感や公正さを重んじ、人と自然の共生する平和な社会を築いていく心を育て、自立して行動する力を養うことを教育の原点とし、広島子どもたちが、「心身ともにたくましく思いやりのある人」として、その可能性を最大限に発揮する教育を推進している。
- 本市の生徒は、令和5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査や、学習意識等調査から、自尊意識・規範意識等が全国平均よりも高く、自分を大切にする気持ちや、規則を守ろうとする態度が身に付いていることがうかがえる。一方で、地域や社会のために何かしたいと考えることや、社会の出来事や事件などに関心を持つことについては、平均を下回り、過去数年間では減少傾向が見られる。また、平成30年12月に、「広島市いじめ防止対策推進審議会」の答申が出されたことを踏まえ、各学校において、「いじめ見逃し0（ゼロ）」を目指し取組を進める中で、いじめの認知件数は、増加後に横ばいで推移している。引き続き、いじめの未然防止に向けた取組を推進するとともに、生徒の命の大切さや思いやりなどの豊かな心をはぐくみ、当事者として道徳的な課題に主体的に対処することのできる、実効性ある力の育成に取り組むことが必要である。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 道徳科の学び方の示し方 ② 主題名等の示し方
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 考え、議論するための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 ⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫 ⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向 ⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方
<内容の表現・表記>	⑨ 他教科との関連の示し方 ⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭に、1年間で学ぶことを4つの視点及び内容項目ごとに一覧で示している。また、「道徳科とは」で道徳科の目的を、「道徳科の授業はこんな時間に」で授業の流れを3段階に分けて説明し、教科書の使い方を記載している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の目次で、4つの視点をマークや色分けで示している。また、各学年の巻頭「一年間で学ぶこと」で、色とマークを分けて、4つの視点・22の内容項目とともに教材名を示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直し、考えを深めることができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、「考えよう」、「見つめよう」、「ぐっと深める」等、話し合いを深める発問を示している。また、コラム「Plus」を各学年に設け、直前の教材に関する話し合いの具体的な流れを示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。
- 各学年に巻末付録として、葛藤教材等で自分の気持ちを表現する際に使用することができる「心情円」を掲載している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「考えよう」、「見つめよう」のコーナーを設け、発問を示している。また、自分の考えを記入する欄を複数設けている。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、直前の教材に関連した学習「Plus」のコーナーに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を複数、自分の考えを記入する欄とともに設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりに「考えよう」や、「見つめよう」の発問を示している。
- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、年度始めの自分の気持ちと、学年の終わりの心に残っている教材や、自分の気持ちを記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	7	7	14	7	35
2	7	7	14	7	35
3	7	7	14	7	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年とも、「いじめのない世界へ」という、いじめ問題を直接的に考える各教材や、コラムをひとまとまりとしてユニットを設定している。
- いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「絵」、「物語・文章」、「漫画」を用意している。また、特に1学年において、いじめの構造の説明を取り扱うコラムを設けている。
- 今日的、現代的な課題として「防災・安全」、「多様性（ダイバーシティ）」、「伝統・文化」、「情報モラル」を題材にした教材を目次や、巻末の教材一覧表で示している。また、付録ではSDGsについて関連して考えられる教材を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「教材一覧表」の「他教科等との関連」に、関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：35/35+10、第2学年：35/35+10、第3学年：35/35+12
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、朗読音声・ワークシート・人物紹介・デジタル心構円・VR映像・ウェブサイトのリンク・写真・動画等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭に「さあ、道徳を始めよう！」という題で道徳の目標を示している。また、「どうやって学ぶの？」で、道徳の授業の流れを5段階に分けて説明し、話し合いのポイントをイラストとともに掲載している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の巻頭「この教科書で学べるテーマ」で、7つのテーマに分けて示している。また、各学年とも目次で、4つの視点をマークや色分けで示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、「ひろば」のコーナーにおいて、考え話し合うことを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を複数設けている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「学びの道しるべ」のコーナーに、3つの発問（「教材をもとに道徳的価値について問題意識をもつ問い」、「自分ごととして、多面的・多角的に考える問い」、「自己を振り返り考えを深める問い」）を示している。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を各学年に掲載し、教材に続く「やってみよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習した内容を広げることができるよう、各学年、特集ページ「ひろば」を設けている。
- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、「この教科書で学べるテーマ」を示し、「道徳科の学びをもとに考えよう」や「学びを振り返ろう」に、学期・学年終わりの自分の気持ちを記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	8	8	12	7	35
2	8	7	14	6	35
3	7	6	13	9	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、2つの教材とコラム「ひろば」で構成された、ひとまとまりのユニット「いじめをなくそう」を設定している。
- 今日的、現代的な課題として「防災」、「情報モラル」を題材にした教材を目次で示している。巻末の教材一覧表では、関連するSDGsの目標を示している。また、世界情勢に鑑みて、「平和」についても取り上げている。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「内容項目別教材一覧表」の「他教科等との関連」に関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：35/35+3、第2学年：35/35+4、第3学年：35/35+2
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- 「まなびリンク」は、教材解説・補足資料（動画・ウェブサイトのリンク等）がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭「本書で学ぶ皆さんへ」で、教材を通して考えを深めるためのてびきを示している。また、「道徳の学習を始めよう」で、留意すべきポイントや1年間に学ぶ内容について、イラストを交えて示している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の目次で、4つの視点を表すマークの説明がある。また、各学年の巻頭で、22の内容項目を4つの視点に分類して、すべてイラストで示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の「考えよう」のコーナーにおいて、話し合いを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。また、「まなびをプラス」では、教材を読んで考えたことを、次時で活動をとおして深めることができるように設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、教材の終わりに「考えよう」のコーナーを設け、発問を示している。また、「考えよう」に示す発問とは別の立場や視点から、考えることができるような発問を「見方を変えて」のコーナーに設けている。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年1つ掲載し、教材に続く「チャレンジ」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、イラストや吹き出しとともに示し、自分の考えを記入する欄を設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 自分の成長を感じることができるよう、各学年「まなびの記録」に、年度始めや学年終わりの自分の気持ちや、心に残ったことやその理由を記入する欄を設け、一覧できるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	7	7	13	8	35
2	7	8	13	7	35
3	10	6	12	7	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 教材「まなびをプラス」では、前時の授業で学習した教材と、同じ内容項目について2時間連続で扱い、学習を深められるようになっている。
- 今日的、現代的な課題として「防災教育」、「情報モラル」を題材にした教材を、巻末の「この教科書が目指した姿」で示している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「この教科書が目指した1(2、3)年生の姿」の「他教科・領域との関わり」に、関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：25/35+3、第2学年：21/35+3、第3学年：20/35+4
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、朗読音声・資料・写真・動画等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭の「道徳科での学びをはじめよう！」で目的と学び方が漫画形式で説明されている。また、学習の流れを4つのステップで示すとともに、「みんなて話し合うときに大切なこと」のポイントを示している。さらに、「ミニ教材で考えてみよう」で、道徳の時間の進め方を漫画で示している。
- 別冊「道徳ノート」の巻頭に、「ノートの使い方」を説明するコーナーを設けている。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の目次で、生徒に考え合わせたい内容として5つのテーマを設定し、それぞれマークで示すとともに、多様な視点から学べるように、テーマを基に複数のユニットを設定して示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、「考えてみよう」、「自分に+1（プラスワン）」等、考え話し合うことを促す発問を示している。また、各学年、「学びを深めよう」の「学びを深めるヒント」のコーナーに、図や表、付箋や思考ツール等を活用し、話し合いを深める方法を掲載している。
- 1教材1ページで構成した別冊「道徳ノート」では、考えることや考えたことを記入する欄、他者の考えや話し合いをメモすることができる自由欄を設けている。さらに、様々な教材に対応できるように、教材名や内容項目、主題名等を空白にした自由に使えるページを設けている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に複数掲載し、各教材の終わりに「考えよう」のコーナーを設け、発問を示すとともに、自分の考えを記入するページを別冊「道徳ノート」に設けている。また、学習を深めることができるように、教材の終わりに「学びを深めよう」のページを設けている。
- 「学びを深めよう」のページでは、教材名の下に、話し合いを通して何について考えるのかを示している。また、教材に関連した資料や話し合いを深める方法を「学びを深めるヒント」のコーナーに掲載している。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、教材に続く「学びを深めよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、写真やイラスト等とともに示しており、別冊「道徳ノート」に自分の考えを記入するページを設けている。
- 各学年、「学びを深めよう」のページでは、教材名の下に、どのような体験を通して何を考えるのか示している。また、教材に関連した資料や演技を見るときと意見発表のときのポイント等を示した、「学びを深めるヒント」のコーナーを設けている。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりの「考えてみよう」や「自分に+1（プラスワン）」に発問を示している。
- 学習した内容を広げることができるよう、各学年、2種類のコラム「あすへのメッセージ」、「視野を広げて」を設けている。
- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、別冊「道徳ノート」の巻末「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」に、学期ごとに心に残っている授業や、その理由、「これまで道徳科で学んだことを振り返って考えたこと」を記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	7	7	14	7	35
2	6	7	14	8	35
3	7	6	15	7	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年とも「いじめと向き合う」というテーマで、各教材とコラム「視野を広げて」をユニットとして示している。また、年間で複数学習できるよう、各学年2つ以上のユニットを設定している。扉ページを設け、いじめに対するメッセージを投げかけたのち、次のページから教材が始まる。
- 各学年に、いじめと向き合うためのコラムが設けられており、より内容を深められるように、「いじめって何?」、「怒りの感情と上手に付き合おう」といった、いじめ問題について考え合うための資料を掲載している。
- いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、いじめ問題を直接的、間接的に扱った多様な教材や資料等を、全学年において複数掲載している。
- 今日的、現代的な課題として「情報社会」、「自立と共生」、「環境と未来」、「安全な生活」を題材にした教材を、巻末の教材一覧で示している。個々や社会の幸せを目指すウェルビーイングを念頭にユニット化している。また、巻末でSDGsについて掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「1(2、3)年 内容項目別教材一覧」の「教科等との関連」に、関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
第1学年：35/35+10、第2学年：35/35+10、第3学年：35/35+10
※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、音声・ワークシート・動画・関連資料・外部リンク・道具箱（心情メーター・シンキングツール・フリーワークシート）等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭の、「道徳科で学ぶこと・考えること」で、道徳科で考えることを説明している。また、「考えを深める4つのステップ」では、道徳の授業の流れを4段階に分けて示している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の巻頭「さまざまなテーマで学ぼう」で、それぞれのテーマをマークを付して示している。また、「よりよく生きるための22の鍵」という項目で、それぞれの単元の内容項目や主題を示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「深めよう」を設け、話し合いを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「考えよう」のページがあり、発問を示している。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、教材の終わりに続く「深めよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習した過程で思ったことや考えたことを記入できるよう、各学年、各教材に「メモ」という欄を設けている。
- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、「学びのメモ」に日々の授業の気づきを、「学びの記録」に学期ごとの自分の気持ちを、「未来への扉」に学年終わりの自分の気持ちを記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	8	7	13	7	35
2	8	7	12	8	35
3	8	7	13	7	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「いのちの教育」を土台とし、「多様性」と「いじめ防止」の教材を連携させて掲載している。
- 内容項目「生命の尊さ」を各学年とも複数掲載し、多様性とともにいじめを生まない社会づくりについて考えるように、それぞれ教材名の右下に「いじめ防止」のマークを付して示している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 該当なし

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：12/35+1、第2学年：9/35、第3学年：10/35
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、動画・写真・音声・関連サイト・ワークシート・思考ツール・年表等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭の「道徳の時間は『自分を見つめ、考え、生きる』時間」で、内容項目を示している。また、道徳の授業で考える方法について、大きく3つに分けて示している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年巻頭の、『道徳科の時間』は、22のキーワードで学ぶ」という項目で、これから学習する内容項目を示している。また、「いろいろなテーマから学ぶ」で、10のテーマを示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直し考えを深めることができるように、各学年、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材「MY PLUS」を設け、考え話し合うことを促す発問を示すとともに、考えを深めるページを設けている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、教材の終わりに「自分を見つめて考える」、「考えを深める」コーナーを設け、発問を示している。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材の終わりに続く「MY PLUS」のコーナーに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、「学習の記録」に学期ごとの自分の気持ちを、「1年間の学習の記録」に学年終わりの自分の気持ちやこれからの自分に生かしていきたいこと等を記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	8	7	12	8	35
2	8	7	12	8	35
3	8	7	12	8	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年とも『いじめ』を考える」というテーマで、ひとまとまりのユニットを設定しており、1学年は3つ、2・3学年は2つの教材を掲載している。特に1学年はコラム「Thinking (シンキング)」に、『いじめ』と向き合う」という資料が掲載されている。
- 今日的、現代的な課題として「情報モラル」、「キャリア」のユニットを構成し、目次に色枠で示している。また、巻末付録にSDGsに関する教材を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「内容一覧 1(2,3)年」の「現代的な課題等との関わり 他教科・領域との関わり」に、関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：6/35、第2学年：13/35、第3学年：15/35
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、動画・外部サイト等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭の「さまざまなテーマから考えを深めよう」では、8つのテーマで教材を示している。また、「クラスのみならず『道徳授業』を創り出そう」において、道徳の授業についてや、授業の進め方を示している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の目次で、色を分けて、4つの視点とともに教材名を示している。また、「さまざまなテーマから考えを深めよう」という項目で、道徳科で学習するテーマについて、単元ごとに分けて示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各視点に関わって考えを広げることができる四コマ漫画の扉を配置し、課題についての話し合いをするページを設けている。
- 各学年、巻末付録として、授業のテーマに合わせて選択できる26枚のウェルビーイングカードを掲載している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりの「考えよう」、「深めよう」のコーナーに発問を示している。また、その発問に対する自分の考えを記入できる「memo」の欄を設けている。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材の終わりの「考えよう」、「深めよう」のコーナー等に、発問を示している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりの「考えよう」や「深めよう」に、発問を示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	8	7	13	6	34
2	7	6	15	6	34
3	9	7	14	4	34

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年「いじめ・人権」というテーマで教材を掲載しており、「いじめ問題と向き合う」の教材では、質問形式で、なぜいじめはなくならないのかを考えさせるページを設けている。
- 今日的、現代的な課題として「情報」、「国際」、「キャリア形成」、「環境」、「SDGs」等をテーマとしてまとめて示している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 該当なし

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：18/35、第2学年：20/35、第3学年：12/35
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、動画・画像・音声・外部リンク等がまとめられている。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「いじめの未然防止に向けた取組を引き続き推進するとともに、生徒の命の大切さや思いやりなどの豊かな心をはぐくみ、当事者として道徳的な課題に主体的に対処することのできる、実効性ある力を育成する」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直し、考えを深めることができるように、「考えてみよう」、「自分に+1 (プラスワン)」等、考え話し合うことを促す発問を示している。また、各学年、「学びを深めよう」の「学びを深めるヒント」のコーナーに、図や表、付箋や思考ツール等を活用し、話し合いを深める方法を掲載している。
- ・ 1教材1ページで構成した別冊「道徳ノート」では、授業で考えることや、考えたことを記入する欄、他者の考えや話し合いをメモすることができる自由欄等を設けている。さらに、様々な教材に対応できるよう、教材名や内容項目、主題名等を空白にした自由に使えるページを設けている。
- ・ 「いじめと向き合う」というテーマで、各教材とコラムをユニット化し、年間で複数学習できるよう、各学年2つ以上のユニットを設定している。それぞれに扉ページを設け、いじめに対するメッセージを投げかけたのち、次のページから教材が始まる。さらに、いじめと向き合うための「視野を広げて」というコラムが設けられており、より内容を深められるように、コラムの中に、「いじめって何?」「怒りの感情と上手に付き合おう」といった、いじめについて考え合うための資料を、生徒の発達の段階に応じて全学年に掲載している。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直し、考えを深めることができるように、「考えよう」、「見つめよう」、「ぐっと深める」等、話し合いを深める発問を示している。
- ・ 各学年に巻末付録として、葛藤教材等で自分の気持ちを表現する際に使用することができる「心情円」を掲載している。
- ・ 各学年とも、「いじめのない世界へ」というテーマで、いじめ問題を直接的に考える教材をユニット化して設定している。また、特に1学年において、「いじめの構造」の資料をコラムに示している。

「令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について(答申)」において意見を付された教科用図書一覧

番号	種 目	発 行 者	
		よりふさわしい	ふさわしい
1	国 語	光村図書出版	三省堂
2	書 写	光村図書出版	三省堂
3	社 会 (地理的分野)	東京書籍	教育出版
4	社 会 (歴史的分野)	東京書籍	帝国書院
5	社 会 (公民的分野)	東京書籍	帝国書院
6	地 図	帝国書院	東京書籍
7	数 学	学校図書	東京書籍
8	理 科	新興出版社啓林館	東京書籍
9	音 楽 (一般)	教育芸術社	教育出版
10	音 楽 (器楽合奏)	教育芸術社	教育出版
11	美 術	光村図書出版	日本文教出版
12	保健体育	大修館書店	東京書籍
13	技術・家庭 (技術分野)	開隆堂出版	東京書籍
14	技術・家庭 (家庭分野)	開隆堂出版	東京書籍
15	英 語	東京書籍	教育出版
16	道 徳	日本文教出版	東京書籍

